

事項七 東支鐵道管理問題

三三八 一月十二日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

在支外国銀行団ノ東支鐵道視察ニ関スル件

第六号

(一月十二日接受)

今回北京ヨリ来哈セル銀行団一行ハ十二月十日ヨリ当地鐵道現狀ノ視察ニ着手シ東支鐵道長官「オスキローウモフ」並「ド・ホイヤー」「プシカレヨフ」兩理事ノ案内ニテ埠頭付近組立工場(不明)大豆其他雜穀積込狀況等ヲ見物シタルガ一行ハ十一日西部線視察ニ向ヘリ
公使ヘ転電セリ

(長春中継一月十二日后〇、二五)

三三九 一月十二日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道ニ対スル勞農露國側ノ对支要求ニ関スル新聞報ニ付報告ノ件

公第二二二号

(一月二十四日接受)

大正十二年一月十二日

ヒ鐵道付屬地守備ノ為メ露國軍隊ヲ入ラシムヘシ

三、哈爾濱其他鐵道沿線重要駅ニ於テ以前行ハレ居タル規定ニヨリ鐵道ノ支配並監視ヲ行フガ為メ勞農行政官憲ノ存在ヲ許スベキコト

右ノ外勞農代表ハ支那ニ対シ露國白色避難民ニ対スル保護ヲ廢止スベキコトヲ要求スル筈ナリ

右報道ハ支那新聞紙間ニ多大ノ論議ヲ醸シ北京新聞紙ハ之ニ多大ノ注意ヲ払ヒ居レリ

本信写送付先

北京公使 奉天総領事

三四〇 一月十四日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛

在支外国銀行団ノ東支鐵道視察ニ関シ報告ノ件

公第四〇号

(一月二十四日接受)

大正十二年一月十四日

在哈爾濱

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

七 東支鐵道管理問題 三四〇

在哈爾濱

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道問題ニ関シ露國ヨリ支那ニ対シ提示スヘキ議案ニ関スル件

当地発刊ザリヤ紙ハ十二月十一日大要左ノ如キ記事ヲ掲載致居候元来ザリヤ紙ハ極テセンセーショナル記事ヲ掲グルヲ常トスルニ依リ本件モ素ヨリ信ズルニ足ラザルベキモ時節柄何等御参考迄ニ報告申進候 敬具

記

北京一月十日特電

支那新聞紙上ニ左記記事顯ハレタリ

支那官憲ノモスコヨリ得タル報告ニヨレハ勞農政府ハ来ルヘキ露支會議ニ於テ左記三要項ヲ提出スヘシト

一、支那ハ別個ノ条約ニヨリ定メラレタル条件ニヨリ速ニ東支鐵道ヲ露國ニ還付セザルベカラズ

二、露支条約ノ定ムル規定並嘗テ存セル鐵道守備規則ニ從

在支外国銀行団ノ北滿視察ニ関スル報告

在支外国資本団ノ北滿視察ニ就テハ往電第六号ヲ以テ及報告置タル次第モ有之候処東支鐵道幹部ノ一行ニ対スル接待振ハ慇懃ヲ極メ殆ント首腦者總出ニテ款待至ラサルハナキ状態ニテ或ハ最大急行車ヲ駛走セシメテ運輸狀況ノ完璧ヲ示シ機關庫汽車組立工場埠頭其他ノ商業の施設ノ整頓振ヲ實地ニ見聞セシメ付帶事業ノ改善進歩ノ跡乃至将来ノ計画抱負ヲ示シ鐵道經營ノ順調ニ進捗セル点ヲ誇示宣伝スルニ汲々タルカノ感ヲ覺エシメ候而シテ東支當局者ハ勿論外間ニ於テモ一行視察ノ目的奈何ニ就テハ世上種々ノ取沙汰行ハレ居ル次第ニ有之候処右ニ関シテハ多少ノ因由ナシトセズ蓋シ客年東支鐵道問題ガ「ワシントン」會議ノ議題ニ上リテ以来東支鐵道ノ運命ニ就キ種々論議セラレ鐵道ニ利害ヲ有スル人士間ニハ成行如何ニ対シ深甚ノ注意ヲ払ヒツツアリシガ該會議ニ於テ決議トナリテ外間ニ発表セラレタル処ハ真正ノ意味ニ於ケル決議ニアラズシテ単ニ二三ノ希望案項ヲ取纏メ発表シタルニ過ギザレド鐵道問題ヲ討議シタル専門委員會ニ於テ「ルート」卿ノ報告並ニ之ニ関連シ東支鐵道中立論(利害關係國間ニ鐵道ニ関シ平等ノ權限ヲ付与セ

ヨトノ計企案）及鐵道ニ對シ財政技術軍事上ノ監督權乃至連合技術部委員會ノ權限擴張案等ノ議論出デタルコトヲ耳ニセル支那一流ノ「ジョーヴィニスト」連ハ全国ニ檄ヲ飛ハシ國際管理排斥ノ示威運動決議抗議ヲ相次キ表明セル騷キ有之タル事實ハ今尚吾人ノ記憶ニ新ナル処加之技術部委員長「スチーブンス」氏ガ華盛頓會議ニ召集セラレテ渡米ノ途ニ就キタル當時氏ハ氏ノ持論タル共管說採用セラレザル暁ニ於テハ再ヒ帰任セズト豪語シタル趣當時ノ新聞ニ喧伝セラレタルガ東支問題ニ関スル最後ノ華盛頓會議々決トシテ發表セラレタル処ハ鐵道守備ノ改善ト勤務者ノ任命雇傭ニ選択ヲ加ヘ且ツ經費節約ヲ旨トスベシトノ希望ヲ開陳シ更ニ決議案ノ形ニ於テ東支鐵道ニ関シ支那ガ執ルヘキ一切ノ処置ニ對シテ支那ハ將來出現スヘキ露國主權ニ對シ責任ヲ負フモノナリト通牒シタルニ止リ且又内容ガ余リニ空漠ニ失シタル嫌アリシガタメ一部論客ニハ支那國民ノ反感昂進ヲ避クルタメ表面ヲ曖昧模稜ノ間ニ糊塗セルモノニシテ必ズヤ未發表ノ申合セ決議アリト揣摩スルモノアリ共管成ラズ最後ノ主張タル技術部權限問題スラ葬リ去ラシメタルニ係ラズ此際「スチーブンス」技師ノ任ニ帰來スルアリ曩ノ

ノ好感談ヲ連日掲載セル等モ亦半面ノ消息ヲ裏書スルモノナラムカト思考セラレ候

翻テハ左党系新聞ハ一行ノ來哈目的ニ付内心疑念ヲ藏シ表面冷笑視セルモノノ如ク東支側ノ迎合振ハ旅行ヲ御大名行列化シ西部線ノ巡視ヲ一晝夜往復ニテ要領ヲ得セシムル底ノ予定「プログラム」ニテ何ノ視察ヲ果シ得ン而モ車窓外零下三十度ニ及ブ嚴寒ニ辟易シ展望車ニ依リテ瞥見シ得タル処ハ雄大ナル興安嶺ノ冬景色ノミカト思切ツタル「アイロニー」的批評ヲ加ヘ東支幹部ノ戰戰兢兢的態度ヲ捕ヘテ毒矢ヲ放テル辺リ正ニ敵ハ本能寺ニアリノ感ヲ免レ難ク候之ニ反シ「ノーボスチーズニ」新聞ノ感想ハ何等愛憎ノ念ヲ交ヘズ比較的肯綮ヲ得タル觀察ト思考セラルルニ付其要旨ヲ略述スレバ東支ニ客分トナレル銀行團一行ノ動靜ニ顧ミ一行訪問ノ目的ヲ略ボ推察シ得タリ惟フニ東支鐵道ヲ中心トシ展開セル豐饒無比ノ北滿州地方ハ外國資本家ノ注意ヲ惹キ付ケ茲ニ將來ヲ有スル此地方產業商工業ニ資本ノ投下ノ道ヲ探グルニアルベク一行ガ東支ニ客トナリテ以來好シデ興味ヲ引キシハ地方富源商工業經營水路至便ノ中心地トシテ遠ク西伯利及沿黑州ノ接続セル哈爾濱及付近ノ發

豪語ヲ記憶スル人士ハ氏ノ來哈ヲ目シテ政府ト何等ノ默約成リタル結果ナリトシ氏ノ一挙一動ニ注視セル等弥ヤガ上ニモ東支ノ成行ニ對シ暗中摸索ノ念ニ捕ハルル次第ニ有之候形勢斯ノ如クナルヲ以テ資本團殊ニ各國代表ヨリ成ル一行ノ來哈ハ世上注視ノ的トナリタルハ真意ノ如何ハ別トシテ宜ナリト云フベク当地支那新聞ハ一斉ニ「是レ列國共管ノ前提ニ外ナラズ」ヨッフエ」ノ北京入以來東支ニ對スル露重銀行ノ立場困難トナリ自己ニ有利ノ形勢ヲ求ムル必要アル仏國資本家ハ勞農政府ニ對抗上此際東支ニ對スル權利ヲ借款團ニ提供セント欲シ支那鐵道共管ヲ見越シ借款團之ニ応ゼントス思フテ茲ニ至レハ支那政府ニトリ重大問題タリ深甚ノ留意ヲ怠ルベカラス」云々ト面目論ヲ鼓吹シ暗ニ厄介物ノ到來視シ居リ候東支側ハ右ト別個ノ觀察ヲ有シ東支鐵道ノ經營維持困難積弊百出等ハ屢々流説セラレタルコトアリ資本團ノ來哈ハ目ノ當リ実況ヲ視察シ列國カ何等カノ斷案ヲ下スベキ視察旅行ト見做セルモノノ如ク主トシテ及落決セラルヘキ試驗ニ臨ム態度ヲ以テ汲々乎トシテ甘心ヲ求ムルニ似タル概アル次第ハ前述ノ通りニ有之御用系ノ新聞ガ一行ノ動靜ヲ伝フルニ東支鐵道經營ノ整備並ニ一行

展狀況及其將來ノ点ニアリ同様ニ鐵道ニ就テモ商工業助長策並產業開發ニ伴フ施設將來ノ企画乃至北滿州一般經濟狀態ニ関スル意見ヲ聴取セルヲ主眼トシ就中「スチーブンス」氏ノ如キハ米國四十九ノ銀行團ヲ代表スト云ヒ予メ自己ノ「プラン」ヲ示シテ訪問回答ヲ求メ微細ニ入りタル觀察ヲ遂ゲ西部線視察ニ際シ「モスコ」直通ノ実施ノ際ニ仕向ケラルヘキ「エキस्प्रेस」ヲ出シテ試乗ヲ与ヘタルハ一行ニ好感ヲ与ヘ歐亞交通連絡ノ必要ヲ適切ニ示シタルモノノ如ク尚東支鐵道見學ヲ終ヘタル一行ガ二日間滯哈シ商業會議所ヲ始トシ当地財界方面乃至商業者主タル向々ト会见シ一般地方經濟狀態及將來ノ發展如何ニ就キ意見交換ヲ試ムル筈ナリト云ヘバ略其來哈ノ目的ヲ推知スルニ足ル云々ト述べ放資先ヲ求ムル為メノ視察ト見做シ居リ候因ニ一行ハ在北京露重銀行代表「プチチエナン」ヲ案内役トシ米人「スチーブンス」天津北京「タイムス」記者「ベソネリ」元「スエズ」運河技師長「ベリヨ」技師英資本家「ステンダマン」正金代表武内外一行十名ニ有之一月十六日旅程ヲ了ヘ一先ヅ北京ニ歸向ノ予定ニ有之候右何等御參考迄茲ニ及報告候 敬具

写送付先 北京公使

三四一 一月十七日 関東庁警務局長ヨリ
亜細亜局長宛

在支外国銀行団ノ東支鐵道視察ニ関スル件

関機高収第四二七号ノ一 (一月二十二日接受)

大正十二年一月十七日

関東庁警務局

外国銀行団ノ東支鐵道視察

在北京米國銀行代表「スチーブンス」正金銀行支店長竹内和吉、露亜銀行代表「ロハッチャー」外九名ヨリ成ル在支各国銀行団員ノ一行ハ過般北京ヨリ哈爾濱ニ到リ(一月七日長春通過北行)東支鐵道狀態ヲ詳細視察中ナルカ右ハ該鐵道經營權ヲ露國ニ於テ獲得スヘク之レカ資金ヲ各国銀行団ヨリ仰カンカ為実地視察スヘク出張シタルモノナリトノ説アルニ對シ露亜銀行總支配人「プチヒュデネン」氏ハ東支鐵道カ四國借款ノ為ナリト世評サルルモ事實無根ニシテ現ニ同鐵道ハ四國ノ借款ヲ必要トセス自ラ艱難ヲ切抜ケ得ル狀態ニアリ而シテ東支鐵道ハ一九二〇年支那政府對露亜銀行トノ間ニ締結シタル協定ニヨリ今尚ホ繼續セラレ居ル

線ヲ日本ニ奪取セラレタリト見ルハ誤リナルヲ述ヘタルモ張ハ毫モ之ヲ諒解スル氣色ナク滿鐵線ト同一軌道ノ新線一條ヲ当地迄敷設スルコトニモ反對ナルコトヲ言明セリト告ケタルニ付南北滿州間頗ル密接ナル經濟的關係ニ顯ミ日本カ兩鐵道ノ交通ノ尚進ンテ自由ナルヲ希望スルハ当然ニシテ此点ニ関シ露亜銀行側及合資側ノ諒解アルヲ聞クハ愉快ナルト共ニ奉天ノ態度反對ナルヲ惜シムモ要スルニ我方ノ希望スル処ハ「スルー、トラフィック」ヲ得ントスルニアルヲ以テ往年滿鐵側ニ於テ右ニ對スル一弁法トシテ案出シタル通り兩鐵道ノ軌道ハ其儘トナシ置キ從テ貨車台広狹ノ差ハ現在通りトスルモ貨車ノ実体ヲ車台ヨリ引離シテ他ニ移乗シ得ル様裝置シ長春ニ於ケル接続点ニ於テ之ヲ移轉セシムルノ方法ニテモ採用シ得ルニ至ラハ我方ニ對シ頗ル好感ヲ与フヘシト述ヘタル処左様ノ方法ナラハ張作霖モ納得スヘシト云ヒ居レリ

北京、奉天へ転電セリ

三四三 一月二十三日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露亜銀行代表者來訪ノ上東支鐵道ガ過激派ノ

七 東支鐵道管理問題 三四三

モノニシテ今回ノ視察団ハ東支鐵道カ露國通商上重要地位ニアル關係上今回外國資本団ノ視察ヲ見タルモノニシテ借款問題ニハ何等關係ナシト語り居レリト

報告通報先

内閣書記官長 亜細亜局長 拓殖事務局長 在京長官

三四二 一月二十三日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道南部線ノ軌道變更ニ對スル張作霖ノ

態度ニ付報告ノ件

第一五号 (一月二十四日接受)

一月十九日「プチチュグナン」ト雜誌ノ際日本カ長春哈爾濱間ノ軌道變更ノ希望アルコトハ露亜銀行側並「オストロウモフ」モ良ク諒解シ居リ且ツ在北京ノ重ナル公使連モ日本ノ協調的政策ヲ最近非常ニ良ク諒解シ來レル次第故之ニ對シ反對の態度ニ出ツルコト無カルヘシト信スルモ頗ル意外ナルハ張作霖ノ態度ナリトテ客年十二月中旬同人カ張作霖ト会见セル際本件ニ関スル談話アリタルコトヲ語り且ツ其節自分ハ國際的鐵道ニ於テハ同一軌道ヲ採用シ列車ノ出入ヲ自由ニスル例多々アリ軌道ヲ變更スレハトテ直ニ南部

來襲ヲ受ケタル場合ニ對スル日本ノ態度ニ付

質問シタルニ對シ私見ヲ述ベタル件

第一六号 (一月二十三日接受)

「プチチュグナン」來訪ノ際東支線ニ對スル過激派來襲ノ風説ニ関スル本官ノ所見ヲ質ネタルニ付諸種ノ情報ヲ綜合スルニ右ヲ事實ト認ムヘキ確實ナル根拠無ク目下ノ処ニテハ宣傳ト見ル外無キモ形勢ノ推移ニ付テハ油断ナク注意シ居ル旨答ヘタルニ英、米、仏等ノ領事モ同意見ニテ東支鐵道側モ同断ナルノミナラズ支那軍ト赤軍ノ衝突ヲ見ルニ於テハ由々數國際問題ヲ惹起スヘキニ付自分トシテモ之ヲ信ズル能ハザルモ若シ右様ノコトアリタル際日本ノ執ルヘキ態度如何ト再問セル故右等ノ点ニ付テハ何等帝國政府ノ御方針ヲ存ジ居ラザルモ本官限りノ私見ニ抛レバ浦潮ノ例モアルニ付帝國トシテハ假令駐兵ノ當時ニ於テモ赤白兩党ノ争ハ勿論赤軍ト支那軍ノ衝突ニモ干渉スルコトナカルベキ故一兵ヲモ駐メザル今日斯ル衝突ノ渦中ニ投ジテ特ニ再度出兵ヲ試ムルガ如キ事断ジテ無キヲ信ズ但シ我在留民ノ生命財産ニ對スル保障ニ付テハ十分ナル努力ヲ為スヲ疑ハザル旨述ヘタルニ赤支兩軍衝突シ帝國在留民ニ對スル危害

的確トナリタル際各國ヨリ日本ニ對シ出兵保護ノ依頼アラバ如何ト質ネタル故若シ仮ニ右様ノ場合アリテ各國在留民保護ノ必要緊急ナルモ我國トシテハ団匪事件救援隊ノ如キ形式ニ非ザレバ再度出兵ヲ為スニ至ラザルベシト答ヘタルガ其ノ際「プチチュグナン」ハ各國共何等進ンテ過激派ノ跳梁ヲ抑制スルノ態度無クンバ過激派ハ遂ニ増長シテ如何ナル暴力手段ニ出デ来ルモ知レザルヲ憂フルモノノ如ク右ニ関シ当地各國領事ニ於テ暴力使用ノ際ハ關係國ハ黙視セザル旨ヲ過激派側ニ對シ仄メカシ置クノ方法無キヤト再問セル故他國領事ハ知ラズ本官ハ斯ル直接干涉ニ類スルガ如キ行動ニ出ヅルハ面白カラズ若シ飽迄右様ノ心配アルナラバ当地方ノ秩序並在留民保護ニ藉口シテ支那側ニ對シ何等カ申入ヲ為ス位ナラバ不可能ニハ非ザルベク間接手段ナガラ之ニテモ過激派ニ對シテハ少カラズ影響アルベキ旨述ヘ置ケリ

三四四 一月二十七日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内總領事宛（電報）

露亞銀行代表者ノ質問ニ答ヘタル意見ニ関連

シ私見ト雖ドモ之ガ發表ニハ注意ヲ要スル旨

スル日本政府ノ態度如何ヲ確メントシテ當館ニ問合セ来ルモノ益々多數ナルガ中ニハ日本ハ恐ラク其ノ經濟的利益ヲ侵害セラレザル限り強ヒテ右ニ反對セザルベシト云ヒ居ル者モアル処帝國政府ノ右ニ對スル御方針トシテハ既ニ種々ノ機會ニ於テ政治的中心ヲ樹立シ得ル力アリト認メラルル露國側ト円満ナル通商關係ヲ結バントスル希望切ナルコトハ之ヲ明ニ表示シアリ且右等ノ經過如何ニ拘ハラズ進ンデ沿海州一般並北滿地方ヨリ撤兵ヲ斷行セル程故新ニ出兵等ノ拳ニ出デザルコトハ勿論ニシテ又東支鐵道ノ將來並其ノ沿線ノ治安ニ関シ重大ナル問題發生スルコトアルモ從來ヨリノ關係諸大國ト完全ナル協調ヲ見ルニアラザレバ何等進ンデ單獨行動ニ出ヅルコトアルベシト思考シ難キ旨説明シ居リ右ニテ大体差支ナシト信ゼラルルモ尚何等本官ノ心得トナル儀アラバ御垂示アル様致シタシ

北京へ電報済ミ

（付記一）

十一月二十一日内田外務大臣宛在ハルビン山内總領事宛電報第二〇四号

東支鐵道ニ對スル日本ノ態度ニ付回訓ノ件

第二〇四号

七 東支鐵道管理問題 三四五

指示ノ件

付記一

大正十一年十一月十四日在ハルビン山内總領事宛内田外務大臣宛電報第四一〇号

東支鐵道ニ對スル日本ノ態度ニ付請訓ノ件

二

大正十一年十一月二十一日内田外務大臣宛山内總領事宛電報第二〇四号

右請訓ニ對シ回訓ノ件

第一一七

貴電第一六号ニ関シ

客年往電第二〇四号申進ノ次第アルニ拘ラズ今回斯ノ如キ意見ヲ表示セラレタルハ面白カラズ東支側ノ宣伝ニ使用セラレザルコトハ肝要ナルモ同時ニ吾ガ將來ヲ幾分ニテモ「コムミット」スル如キコトハ貴官ノ私見ト雖發表セラレザルヲ適當ト認ムルニ付右御含アリタシ

（付記一）

大正十一年十一月十四日在ハルビン山内總領事宛内田外務大臣宛電報第四一〇号

東支鐵道ニ對スル日本ノ態度ニ付請訓ノ件

第四一〇号

昨今当地右党側並蒲潮ヨリノ避難露人ノ中ニハ齊多側カ東支鐵道ヲ武力ニテ奪回スルノ日遠カラザル由ヲ語リ右ニ對

貴電第四一〇号ニ関シ

斯カル質問ハ如何ナル魂胆ニ出ヅルヤ測リ難ク之ニ對スル我方ノ態度ヲ示スコトハ重大ナル影響ヲ招徠スルヤモ難計ノミナラズ彼此意見ヲ表示スルハ目下ノ貴地ニ於ケル状態ニ鑑ミ種々ノ誤解ヲ惹起スルノ虞アリト思考スルニ付本件ハ事重大ナルヲ以テ貴官トシテハ意見ヲ表示シ難キ旨ヲ以テ應接セラレ度シ

三四五 一月二十七日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道西部沿線ノ概況視察復命書進達ニ関

スル件

公第一〇五号

（二月九日接受）

大正十二年一月二十七日

在哈爾濱

總領事

山内 四郎（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

塩田書記生東支西部線視察復命書進達ノ件

当館在勤外務書記生塩田弥惣ハヨリ別紙ノ通東支鐵道西部線視察復命書差出候ニ付右茲ニ及進達候 敬具

復命書

小官川上波蘭公使閣下出迎旁東支沿線西部線狀況視察ヲ兼
ネ滿州里へ出張ヲ命セラレ去ル一月二十一日当地出發同二
十二日滿州里着同二十三日未明川上公使ヲ同地停車場ニ出
迎へ同日公使一行ト共ニ同地発同二十四日帰任致候旅行ノ
短日ナルト往返共途中何地ヘモ立寄ラサリシ為資料蒐集ノ
機会ナカリシハ誠ニ遺憾ニ有之候不取敢沿線概況別紙ノ通
及復命候 敬具

大正十二年一月二十五日

外務書記生 塩田 弥惣八

東支鐵道西部沿線概況

昨年十一月下旬殆ソド同時ニ三ヶ所ニ重大事故發生シ一時
旅行ノ危険ヲ感セシメタル東支西部線ハ今ヤ全線秩序全ク
回復シ沿線各駅ニハ五名乃至十数名ノ支那路警列車ノ停車
中之カ警備ノ為メ構内「ブラットホーム」ニ劍銃ヲ肩ニシ
距離ヲ隔テテ整立セルモ殆ソト形式タルノ觀アリ彼ノ最近
海拉爾方面ヨリノ消息ナリトシテ当地支那紙ニ伝ヘラレタ
ル赤軍カ不逞鮮人ト結托シテ東支鐵道ヲ占領セントシ種種
ノ画策ヲナシツツアリトノ報道ハ何等根拠ナキ捏造說ニシ

露人ヲ赤化セシメンカ為殊更ニ流布セル一種ノ謠言ニ過キ
サルヘシ

要之東支沿線ニ於ケル支那側ノ鐵道警備ハヨク行届キ居リ
テ極メテ安楽ニ旅行シ得ヘク又東支沿線赤化說ハ単ニ一種
ノ風説ニ過キスシテ事實何等カカル形跡ナク中心地タル当
哈爾濱ノ形勢如何ニヨリ自然變動スヘキモノト觀測セラル
(通商ニ関スル報告ハ追テ別冊ヲ以テ進達スヘシ)

三四六 一月三十一日 牛島北京公所長事務取扱ヨリ
東京支社長宛

英米兩國ノ對東支鐵道政策ニ関スル報道ノ件

北公報第九号

大正十二年一月三十一日

北京公所長事務取扱 牛島 吉郎

東京支社長殿

英米兩國ノ對東支鐵道策
駐支英米兩國公使ハ赤露ノ東支鐵道脅威ニ関シ先ニ報告ヲ
各本国政府ニ致シテ指揮ヲ仰ク所アリシカ最近ノ報道ニヨ
レハ米國政府ハ駐米英國大使ト協議シ次ノ五方針ヲ決定セ
リト云フ

七 東支鐵道管理問題 三四六 三四七

テ列車ノ停車中海拉爾其他ノ各駅ニ於テ駅長其他ノ露人支
那人等ニ就キ夫レトナク探索シタルニ同地方ニハ何等斯種
ノ風説サヘナク又事實赤軍ノ隻影ダニナシ鐵道従業員ハ何
レモ旧來ノ勤続者ニシテ専心平和ヲ熱望シ居リ敢テ政治問
題ヲロニスルモノナシ帰途ノ列車ニハ「セレブリヤコフ」
一行ノ烏蘇里黑龍線視察団ヲ乗セタル勞農政府ノ特別客車
連絡シアリ又「レビヨーヒン」(浦塩要塞司令官兼軍港司
令官)乗車シ居リタルガ各駅ニ於ケル停車中何等宣伝ラシ
キ行動ヲナシタルヲ認メス只管外部トノ交渉ヲ避ケテ常ニ
客車内ニ引籠リ居タリ、又札爾諾爾駅西方二露里ノ地点ニ
アル札爾諾爾炭鉱ノ如キモ熾ンニ作業シツツアリテ抗夫ハ
皆從順ニ勞役ニ服シ居リ何等不穩ノ噂ヲ聞カス、海拉爾付
近一帶ニ亘リ約十万人ト称セラルル露國避難民ハ大半比較
的地味豐沢ナル海拉爾河沿岸ニ簡單ナル家屋ヲ築造シ散在
シテ農耕ノ計画ヲナシツツアリ又勞農側カ東支鐵道奪回ノ
目的ヲ以テ滿州里國境方面ニ熾ンニ増兵シツツアリトノ報
道モ信拠スヘカラサル風説ニシテ滿州里駅付近ニハ斯カル
形迹ナク噂サヘナシ察スルニ斯カル宣伝ハ各地ニ於ケル過
激派ノ宣伝員カ東支沿線ニ於ケル鐵道従業員並ニ其他一般

(一) 一八二〇年十月二日ノ条約ニ基ク支那ノ東支鐵道委任
管理權ハ之ヲ尊重スルモ唯路政ノ管理ニ関シテハ支那
カ自動的ニ之ヲ整理シ以テ赤露ノ割込ミニ備ヘンコト
ヲ支那政府ニ勧告スルコト

(二) 東支鐵道沿線ノ匪賊ニ對スル支那政府ノ嚴重ナル警備
ヲ求メ沿線在留外國人ノ完全ナル保護ヲ支那政府ニ對
シ求ムルコト

(三) 「ワシントン」會議ノ議決ニ遵ヒ一九一九年ノ平和會
議ニ關係セル各國ニ對シ東支鐵道ニ對スル支那ノ利益
ヲ擁護センコトヲ求ムルコト

(四) 支那政府ノ東支鐵道買収ヲ援助シ又相當ノ時機ヲ見テ
東支鐵道ニ對スル財政上ノ援助ヲ与フルコト

(五) 露支間直接ノ交渉ニ依リ平和的解決ヲ見ル望ミアル間
ハ兩國ノ主權ヲ尊重シテ決シテ干涉セサルコト

三四七 二月五日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道付屬地域ニ於ケル中國軍憲ノ最近ノ
行動ニ関シ報告ノ件

機密第六六号

(二月十五日接受)

五一三

大正十二年二月五日

在哈爾濱

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

支那官憲ノ最近ニ於ケル態度ニ関シ報告ノ件

当地支那官憲ノ最近ニ於ケル態度

(一)東省特別区域内ニアル護路軍司令即チ東支鉄道付属地内ニアル鉄道守備軍司令官タル朱慶瀾大将ハ北京政府ノ任命ニ依ルコトナク張作霖ノ命ニヨリテ其ノ職ニ就キ居レルモノナルカ其部下兵卒及路警処ノ巡警等ハ鉄道列車ノ停車場ニ発着スル際停車場ニ出デテ之ヲ警衛シ又特別区警察総管理処巡警ハ市内ノ巡邏ヲ行フ等頻ニ支那軍警ノ威力ヲ示サント努力シ居レルガ先頃沿海州方面ヨリ避難セル白色露軍ノ武装解除ヲ行フト共ニ鼻息益々烈シクナリ武器ヲ得ルニ汲々トシテ腐心シ理屈ノ付シ得ル限り詭弁ヲ弄シテ武器ヲ押収スルコトトナシ居レリ現ニ日本臣民ニシテ拳銃及彈藥ヲ取扱ヒ又ハ護身用トシテ拳銃ヲ携帯スル者アレバ之ヲ抑留シ違犯者ヲ当総領事館ニ送致シ来ルモ証拠物件タル武器ハ決シテ送致シ来ラズ当方ヨリ

ツアリ唯東支鉄道ヲ相手トスル訴訟事件ハ常ニ東支鉄道ノ為メ有利ナル理由ヲ案出シ以テ東支鉄道ノ為メ有利ニ判決スルヲ常トスト云フ

(四)支那側ハ当地電鉄事業ヲ日本資本家ト共ニスルヤノ態度アリシ処最近突然米國資本家ト結ビタル事実アリ兎角日本ノ資本ヨリ米國ノ資本ニ抛ルヲ可トスルノ考支那側ニアルモノノ如シ

(四)東支鉄道付属地守備ノ為メ支那軍隊ヲ置クヲ要ス而シテ軍隊ノ維持費補充ノ為メ商賈ニ対シ臨時課税ヲ為サザルヘカラス右保護ヲ受クル者ハ独リ支那商民ノミナラズ露國商民モ亦然リ然ルニ右課税ヲ支那商民ノミ負担スルハ不公平ニ付露國商民モ均シク之ヲ負担セサルベカラズトノ告示支那官憲ノ手ニヨリ發布セラレ露國商民ハ右ニ対シ多大ノ不平アリ

右何等御参考迄ニ報告申進候 敬具

本信写送付先 在支公使 奉天総領事

三四八 二月五日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛

東支鉄道付属地域ノ行政組織再編ニ関スル件

海關以外他ノ支那側機關ガ武器ヲ没収スルノ権能ナキコトヲ指摘シ証拠物件引渡方屢次交渉スルモ未ダ之ニ応セズ誠ニ不可解ナル態度ナリ

(二)当地市政ハ東省特別区市政管理局長馬忠駿ノ管掌事務ニ属シ居レルガ客年末ヨリ本年ニ亘ル市會議員選挙ノ際ニ於ケル支那側ノ態度ヲ見ルニ或ハ議員ノ絶対多数ヲ得ントシ或ハ日本側議員ノ当選ヲ不可能ナラシメントシ其ノ支那ノ為メニ利権ヲ回復セントスル意思ハ誠ニ諒トスベキモ其ノ手段ノ陋劣ナル見ルニ堪ヘズ或ハ選挙場ニ於テ替玉ヲ使用スルアリ或ハ同一人ヲシテ数回投票セシムルアリ或ハ候補者ニ関スル予約ヲ裏切り番狂ハセヲナサシムルアリ其行動如何ニモ策略ノミヲ弄シ真面目ナル選挙法ノ觀念等毫モナキモノノ如ク觀察セラル、然レトモ前記市會議員ノ選挙ニ於ケル支那側ノ策略ハ自暴自棄ノ結果ヲ来シ支那側議員ノ選挙セラレタルモノ僅少ニシテ二回選挙ヲ行ヒタルモ唯二名ヲ得タルノミ残リハ漸ク市政局長ノ指命ニヨリテ当選ヲ見タル有様ナリ

(三)支那側裁判事務ハ最近ニ至リ迅速審理セラルルコトトナリ個人間ノ民事事件ノ如キハ中々テキパキ進行セシメツ

公第一三二号

(二月十五日接受)

大正十二年二月五日

在哈爾濱

総領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東省特別区行政長官公署新設計画ノ件

東支鉄道付属地ノ行政ヲ支那側ニテ回收シタリト称セル以来同区域ヲ東省特別区域ト称シ同区域内ニ東省鐵路護路軍總司令部、東省特別区域警察總管理処、東省鐵路々警処督弁、東省鐵路公司宜公所、東省特別区市政管理局等ノ軍警及行政機關ヲ設ケ東支鉄道及同付属地内住民保護取締ノ任ニ当リ居ル処其事務管掌ニ関シ往々統一ヲ欠クノ不便アリタレハ昨秋張作霖カ陸軍上將朱慶瀾ニ護路軍總司令ヲ委任スルト共ニ近ク新設ノ必要アル東省特別区域行政長官公署(同区域内ニ於ケル各種ノ行政機關ヲ統一ス)ノ長官ニ就任アランコトヲ慫慂シタルモ朱ハ之ヲ受ケス護路軍總司令ノ一職ノミヲ引受ケ今日ニ至リタルカ最近ニ及ヒ朱カ行政長官就任ニ決定セル等ノ旨新紙ニ宣伝セラレ居ル処本官ハ一昨日朱ニ面会ノ節右ニ関シ決定ノ有無ヲ尋ネタルニ朱ハ

最近奉天ニ會議アリテ同地ニ赴キタル際モ張作霖ヨリ頻リニ特別区行政長官就任ヲ懇請セラレ又中央ヨリモ態々奉天ニ人ヲ派遣シ其就任ヲ勸メラレタレハ余ハ之カ為メ同区域内ニ於ケル各種ノ調査ヲ行ヒタル後就任ノ諾否ヲ決定スル様答ヘ置キタル旨語リ候

因ニ前記東省特別区域行政長官公署新設ニ決定セハ現在当地東支鐵道付屬地内ニ事務所ヲ有スル黑竜江鐵路交涉局ノ如キモノニ合併セラルルヤニ伝ヘラレ居リ候

右御參考迄ニ報告申進候 敬具

本信写送付先

在支公使 奉天 吉林 長春 齊々哈爾 滿州里

三四九 二月六日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道總弁王景春ノ東支鐵道ニ關スル會見

談話ニ付報告ノ件

公第六八号

(二月十五日接受)

大正十二年二月六日

在支那

特命全權公使 小幡 西吉(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道ニ關スル王景春ノ會見談ニ關スル件

客月中旬東支鐵道總弁王景春ハ The Weekly Review 記者ノ質問ニ對シ大要

(一) 東支鐵道ノ法律の根拠ハ勿論一八九六年支那政府及露清銀行(一九一〇年露亜銀行ト改稱)間ノ原契約及一九二〇年ノ付屬協定ニ在リテ何レモ露清政府カ該鐵道管理ニ干涉シ得ル旨直接規定シ居ラサル処該契約等ニ不滿ノ点多シトスルモ將來ノ改訂ニ待タサルヘカラサルコト

(二) 該鐵道ニ冗費多キハ主トシテ幹部ニ冗員多ク且學校經營等ニ依リ所謂特別費ノ支出多キ為ニ因ル処種々複雜ナル原因ニ因リ直ニ急激ナル改革ヲ施スコトハ困難ナルニ付徐々ニ經費節減ニ努ムルノ方針ナルコト

(三) 東支鐵道ハ一九一七年乃至一九二一年ノ間最不良ノ狀態ニ在リタルカ爾來孜々トシテ旅客及貨物運送ノ改善ニ努メタル結果現在ニ於テハ面目一新ノ觀アルモ固ヨリ現状ニ甘ンスヘキモノニ非サルニ付一般ノ注意ト忠告ヲ歡迎スルコト

応策ニ關スル情報ノ件

機密第七八号

大正十二年二月十一日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道ト支那軍隊ノ行動ニ關スル情報

浦潮ヲ自己ノ掌中ニ収メタル赤軍ハ東支鐵道ノ回收ニ汲々タルヤニテ先ヅ沿線各地方ノ赤化運動ニ努ムルト同時ニ一面該地方ノ秩序ヲ紊亂セシムヘキ目的ヲ以テ各地方ニ蟠居スル支那馬賊ヲ使喚シテ活躍セシムルヤノ情報アリ旁々相当大部隊ノ馬賊團橫行スルニ至リタルニ鑑ミ今回支那側ハ之ガ對策トシテ保甲團ヲ募集シ更ニ護路軍ヲ増員シタル上奉天第六旅郭松齡旅長ノ部下一營勦匪ノ任務ヲ帶ヒテ翼飛团长引率ノ下ニ鉄嶺河方面ニ出動シタリト云フ

右御參考迄及報告候 敬具

本信写送付先 在支公使 奉天、吉林

三五一 二月十二日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

三五〇 二月十一日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道沿線地方ノ赤化運動及ビ中国側ノ對

七 東支鐵道管理問題 三五〇 三五二

勞農政府ハ東支鐵道ノ武力占領ノ意圖ヲ放棄セルモノノ如シトノ露國記者ノ談話ニ関スル件

機密第七三三

(二月二十二日接受)

大正十二年二月十二日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

極東勞農軍ノ移動ト勞農軍ノ東支鐵道侵略説ニ関スル件

二月十二日

島田副領事ヲ來訪セル東支鐵道機關紙「ルスキーゴロース」記者「ヤーコフ・レオニドウィチ・ペロプロツキー」ノ内話セル処ニ依レバ勞農側ハ武力ヲ以テ東支鐵道ヲ占領セントスル計畫ヲ拋棄セルモノノ如ク現ニ確カナル筋ヨリ自カ聞込ミタル処ニ拠レバ勞農政府ハ從來沿海州ニ置キタル優勢ナル二個師団中最モ素質良好ナル「コサツク」兵ヨリ成ル一師団ヲ沿海州ヨリ引揚ゲテ「イルクーツク」ニ移送シ同時ニ「イルクーツク」ニアル師団ヲ露露ニ転送スルコトトナリタリトノコトニ有之候

右御參考迄ニ報告申進候 敬具

三五一 三月十二日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

赤軍ノ東支鐵道占領説ニ否定的ナル張煥相中將ノ内話報告ノ件

機密第一二八

(三月二十一日接受)

大正十二年三月十二日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

張煥相中將ノ内話ニ関シ報告ノ件

当地方視察ノ為メ來レル朝鮮忠清北道警察部長久留島新司氏ハ赤塚總領事ノ紹介狀ニ依リ当地護路軍參謀長張煥相中將ト会見シタル処其際張將軍カ久留島警察部長ニ内話セル処ナリトテ右会谈ノ際同席セル松島朝鮮總督府通訊官島田副領事ニ内話セル処ニ拠レバ張中將ハ赤軍ノ東支鐵道侵略説ニ関シ左ノ通り語レリトノコトニ有之候
若シ赤軍ニシテ東支鐵道ヲ武力ヲ以テ占領セントセンカ我支那軍ハ之ニ對抗スルノ力元ヨリナシ然レトモ支那軍ハ右

ノ場合鐵道沿線到ル所ノ山中ニ隱逃シ馬賊ト共同シテ絶ヘズ赤軍ヲ苦シメ鐵道ヲ破壊シ其ノ運行ヲ不能ナラシムヘシ若シ赤軍ニシテ右ニ對抗スルノ兵力ヲ備ヘントセバ少クモ五個師団ヲ要スヘシ然ルニ露國現在ノ兵數ハ十個師団ニ過ギズ故ニ五師団ヲ東支鐵道ノ為メニ分ツガ如キコトハ不可能ノコトタリ故ニ結局赤軍ハ來襲スルコトナカルヘシト思考セラル云々

右御參考迄ニ報告申進候 敬具

三五一

四月十四日

内田外務大臣ヨリ
在ハルビン山内總領事宛(電報)

東支鐵道ノ經理ニ對スル中國側ノ干涉ニ関シ

事態ノ真相查報方訓令ノ件

第四六号

四月十三日東支鐵道理事 Pouschkareff 芳沢局長ヲ來訪シ近來支那側ノ同鐵道ニ對スル干涉甚シク殊ニ王景春ハ其ノ先鋒ニシテ目下ノ処帳簿ノ検査ヲ為ス迄ニ至リタルガ此上ハ何時現金ノ出納ニ手ヲ染ムルヤモ難計現金ノ出納ニシテ一旦支那人ノ手ニ落ツルニ於テハ同鐵道ノ前途ハ忽チ暗黒トナルベキ虞アルニ付日本側ニ於テ張作霖ニ交渉シテ王景

春ヲ退カシメ他ノ者ヲ以テ之ニ代ヘシムル等何等適當ノ手段ヲ講ゼラルルコト叶フマジキヤ事情右ノ通りニテ同鐵道露國人理事等一同相諮リ表面私用ノ名義ニテ自分ヲ仏國ニ派遣スル次第ナルガ自分ハ渡仏ノ上此ノコトニ付露亞銀行本店ト篤ト協議スル積ナリ云々ト語リタルニ付之ニ對シ芳沢局長ハ兎ニ角考慮シ置クベキ旨答ヘ置キタル趣ナルガ右ニ関シ事体ノ真相及ヒ御意見見回電アリ度シ
北京及奉天ニ転電アリタシ

三五四

四月十四日

在ハルビン松井陸軍少將宛

東支鐵道ヲメグル諸情勢ニ付情報送達ノ件

大正十二年四月十四日

在哈爾賓 陸軍少將 松井 石根

哈市謀二三二号

「オ」長官ヲ中心トスル東支ノ赤化情況ト之ニ對スル支那側ノ態度ニ関スル「ゴンダツチ」ノ談

一、勞農派遣員ノ來哈ト東支同盟罷工計畫

最近勞農露國ノ派遣員ニシテ公然來哈若クハ哈市ヲ通過スルモノノ多數ナルコトハ周知ノ事實ナルモ彼等以外ニ匿名

ニ依リ又ハ秘密ニ哈市並ニ東支沿線地帯ニ潜入スル者モ亦決シテ諺カラズ殊ニ秘密裡ニ彼等ハ東支鐵道従業員、労働者ヲ煽動シ東支鐵道ノ同盟罷工並ニ東支西線ニ於ケル鐵道橋ノ破壊ヲ實現セントスル者ナリ現ニ数日前ニ於テ同盟罷工カ實現セントセル事實アリタリ或ル者ノ情報ニ依レバ東支鐵道ノ同盟罷工ノ煽動ヲ専務トシ従業員及労働者間ニ活動シツツアル過激派派遣員ハ哈市ノミニ於テ十名ナリト云フ從テ東支沿線ニモ是ニ類スル者ノ潛入シ居ルコトハ勿論ナルベク「ウチコム」(鐵道地方議會)ノ如キハ積極的赤化運動者ニシテ是亦同盟罷工ヲ企テ居ルコトハ否定シ難シ又一情報ニ依レハ莫斯科ノ宣伝学校ヲ卒業セル支那人若干ハ現在伝家甸ニ於テ支那労働者間ニ赤化宣伝ヲ為シ万一ノ場合ニ於テハ一部ノ支那労働者ハ過激派ニ後援スル傾向アリト

現在ノ東支沿線ニ於ケル情況斯ノ如ク極メテ不穩ナルモノ存スルニ拘ラズ朱慶瀾ハ寧口是ヲ樂觀シツツアルナリ彼ハ万一同盟罷工若クハ何等カノ擾乱ノ發生スル場合ハ露支人ヲ問ハズ其ノ参加者ヲ悉ク捕縛シ露人ヲバ其ノ家族ト共ニ勞農露國領土ニ放逐シ支那人ハ適當ニ処措スベシト言ヒ而

「オストロウモフ」宣伝ハ必ズシモ過激派ノ對「オストロウモフ」關係ノ真相ヲ物語ルモノナルヤ否ヤハ甚ダ疑問ニシテ要スルニ哈市左党紙ヲ中心トスル「オストロウモフ」排斥宣伝ハ「チタ」浦潮ガ未ダ莫斯科ノ對「オストロウモフ」關係ノ真相ヲ解セサルカ又ハ是ヲ知ツテ其ノ親善關係ヲ社会ニ陰蔽セントスル目的ノ何レカニ因ルモノナリト看做スヲ至当ト為ス

三、支那側ノ「オストロウモフ」排斥

從來「オストロウモフ」長官ハ支那側ニ信用無ク殊ニ近來彼ガ親勞農傾向カ具体化スルニ至ルヤ支那側ノ「オストロウモフ」反對説カ強烈ト為レリ「オストロウモフ」反對ノ急先鋒ハ王景春督弁ニシテ彼ハ北京ニ於テ屢々「オストロウモフ」ノ免職ヲ力説セルナリ又來ル六月下旬北京ニ於テ開催セラルベキ東支株主總會ニ於テ徹底的ニ「オストロウモフ」ヲ排斥スベク目下「オストロウモフ」ノ言行ヲ詳細ニ調査シ排斥材料ヲ蒐集シツツアリ朱慶瀾モ亦前者ニ劣ラズ「オストロウモフ」反對者ナリ

東支本社理事ノ對「オストロウモフ」關係ハ概シテ反對者多シ即チ支那理事ハ素ヨリ王景春ハ同類ニシテ極力「オス

シテ目下奉天ニ駐在スル支那鐵道大隊ヲ呼寄セ一時列車ノ運轉ニ從事セシムルヲ以テ何等憂慮スル要ナク寧口斯ノ如キ惡分子ヲ撲滅シ得ル点ニ於テ斯種事件ノ發生ヲ希望シア

二、「オストロウモフ」長官ト過激派トノ關係

從來「オストロウモフ」長官カ勞農露國ノ有力ナル人物ノ來哈ニ際シ極秘裡ニ会见シ來タルコトハ吾人ノ探知セル所ニシテ支那当局者モ亦是ヲ認ムル所ナリ殊ニ最近ニ於テハ「オストロウモフ」長官ハ東支鐵道ノ財政ノ改善上勞農露國トノ親善ハ焦眉ノ急ヲ要スル重大問題ナリト公言シ自ラ進ンデ勞農代表者等ニ親交ヲ求メツツアルナリ、彼カ近來ニ於テ殊更ニ斯ル言行ヲ有スルニ至リタルハ支那側ノ彼ニ對スル反對カ万一ノ場合ニ於テ勞農露國ニ立脚地ヲ見出サントスル画策ニ基クモノナルベシ現在ノ「オストロウモフ」長官ハ極メテ少数ノ場合ヲ除ク外ハ「オ」長官ハ囑託「ボクロフスキ」技師ヲ經テ過激派側ト折衝シ居レリ

茲ニ多少疑問トセラルヘキハ即チ哈市左党新聞ノ猛烈ナル「オストロウモフ」反對運動ナリ然レドモ莫斯科ヲ「チタ」及浦潮トヲ全然同一視スルヲ許サス又哈市左党新聞ノ反

トロウモフ」反對ナリ露人側ノ理事トシテハ「ダニレフスキー」ヲ始メ「ドフオイヤ」及「ウェーベル」等ハ「オストロウモフ」反對ニシテ僅カニ「プシカラジフ」及「リヒテル」カ「オストロウモフ」ノ味方ニ過ギズ

四、「プシカリヨフ」ノ旅行ハ「オストロウモフ」ノ陰謀今ヤ「オストロウモフ」ハ各方面ヨリノ自身ニ對スル反對ヲ自覺シ自己ノ位置ノ不安ヲ感じ突然彼ノ唯一ノ同類者タル「プシカリヨフ」ヲ二ヶ月ノ予定ヲ以テ米國及仏蘭西ニ派遣セリ、此旅行ハ表面ハ単ニ休暇旅行ナリト伝ヘラレツツアルモ、其實彼ヲシテ、先ヅ米國ニ於テ彼地ノ有力者間ニ東支財政ノ困難ト米國資力ノ援助ノ必要ヲ主張セシメ而モ「オストロウモフ」カ米國ノ東支ニ對スル後援並ニ物資ノ供給ヲ歡迎シツツアルコトヲ宣伝セシメ又仏蘭西ニ於テハ露亜銀行ヲシテ「オストロウモフ」ヲ後援スヘク宣伝セシムル為ナルヤ勿論ナルベシ元來「オストロウモフ」ハ米國ニ物資ノ注文等ヲ為シ又米國ノ東支ニ對スル勢力ノ擴張ヲ期待セル者ナルコトハ事實ナリ

五、露亜銀行ノ「オストロウモフ」問題ニ對スル態度
哈市露亜銀行支店長「ドフオイヤ」ノ個人的對「オストロ

ウモフ」關係ハ從來ハ親善ナリシモ最近ニ於テハ急転直下シ極メテ不良ナリ、東支鐵道ノ財政ノ挽回上其ノ途ヲ勞農露國ニ開カントスル「オストロウモフ」ノ傾向ニ對シテハ東支鐵道ト密接關係ヲ有スル露亜銀行ハ其主義ニ於テ一致スベキモ然シ是レ実行問題ニ關シテ露亜銀行ハ現在「オストロウモフ」ノ如キ積極的ニ親善傾向ヲ有スルニアラズ北京支店長「ビュテキユゲン」ノ如キハ極力是ガ不可能ヲ論シツアリ、斯クテ支那側ノ「オストロウモフ」排斥ニ對シ露亜銀行ガ果シテ如何ナル態度ニ出ズベキヤハ直チニ是レヲ斷言スル能ハサレドモ現今露亜銀行ハ支那ニ於テ何等ノ余力ヲ有セズ常ニ支那ニ媚ビツアリ而モ支那側ハ露亜銀行ノ無力ヲ知リ敢テ之ヲ重要視セズ斯ル次第ナルヲ以テ露亜銀行ハ佯令「オストロウモフ」ニ對シ排斥スベキ何等ノ理由ヲ有セズト雖モ支那側ノ排斥ニ對シ反對スルガ如キハ有り得ベカラズ、寧ロ傍觀的態度ニ出ズルモノナルヘシ

六、鐵道長官候補者

王景春ハ「オストロウモフ」長官ノ後継候補者トシテ会弁人鳳ヲ推薦シタルガ如ク若シ露支條約ニ基キ露人ヲ長官

トセズシテ支那人ヲ任命スルコトガ問題ヲ惹起スル場合ニ於テモ一時代代理ヲ命ズル等ノ種々ノ手段ニ依リ是ヲ実行シ得ベク又愈々之カ國際問題ト為ル時ハ支那側ハ彼等ノ掌中ノ若輩ノ技師ヲ長官ニ推挙スベシ、現在本社ニ是レニ適スル技師二名アリ即チ「ガラバノフスキー」「ゴスロフスキー」技師是ナリ

鐵道長官候補者問題ニ關シテハ勞農露國ハ數名ノ候補者ヲ哈市ニ派遣シ彼等カ已ニ着哈シ居ルモノノ如ク哈市左党新聞ハ報シ居ルモ要スルニ是等ハ一ツノ宣伝ニ過ギスシテ敢テ重大視スルニ足ラズ

七、「ジダーノフ」ノ「オ」長官秘書問題

「オストロウモフ」ガ「ジダーノフ」ヲ次席秘書ニ採用セントシ居ルハ事實ニシテ其ノ希望ヲ朱慶瀾ニ發表セリト云フモ朱慶瀾ハ「オストロウモフ」ノ政策ニ對シテ万事反對ノ態度ニ出テ居リ又本社理事ノ反對モ尠カラサルヲ以テ恐ラク認可セラレザラン

（「オ」長官ハ視察ヲ名トシテ四月十四日哈市發滿州里ニ向ヘリ最近ニ於テ彼ノ行動ハ一般ニ注意セラレツアリ）

配布先

關東 奉天 長春 北京

三五五 四月十七日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

東支鐵道ノ財政ニ對スル中國側ノ干涉ニ關スル情報送付ノ件

第二二七号

（四月十八日接受）

「プシカレフ」今回ノ赴歐ハ家事上ノ都合ニ基クモノナルモ何等カ東支鐵道ノ財政援助ヲ受クル様運動ヲ試ムル位ノコトハアルヘキ旨予テ聞込メル所（「プシカレフ」來談、支那側ノ東支鐵道干涉）貴電第四六号ニ接セルヲ以テ四月十六日「ドホイヤー」ニ面会最近当地ヲ出發セル「プ」ハ社命ヲ受ケテ渡歐セルモノナルヤ夫トナク確メタルニ全然去ルコトナク家事上ノ都合ニ基ク請暇（本件真相ハ芳沢局長宛私信ニテ承知アリタシ）ニシテ社ヨリハ何等使命ヲ授ケ居ラサル旨答ヘタルニ付尚雜談ノ後支那側ニ於テ同鐵道ノ財政ニ對スル干涉ヲ為ササルハ頗ル不思議ナル感アル由述ヘタルニ實ハ三週間前位ヨリ支那側ニ於テ財政監督ヲ嚴シシタキ旨發議アリ右ハ從來「オストロウモフ」カ財政上余

リ專横ヲ極メ勝手ノ振舞多キ故發生セルコトニテ目下尚重役會ノ議モ定マラス唯一回之ニ關スル評議アリタルノミナカラ自分等トシテ「オ」ノ從來ノ態度ハ面白カラサル故何トカ内規改正ヲ要スルコトト信シ居ル旨述ヘ居タリ要スルニ「プシカレフ」ハ「リヒテル」ト同様ニ専心「オストロモフ」ニ媚ヒ其地位ヲ保タムトセルコトハ在來彼ノ態度ニ照ラシテ明ニシテ「オストロモフ」ハ極力王景春ヲ排斥セムトシ王ヨリ亦「オ」ヲ排斥セムトシ居ル現状ニ鑑ミ芳沢局長カ程能ク応接セラレタルヲ以テ最モ時宜ニ適セルコトト信ス尚在奉天滿鉄公所長ヨリ「オストロモフ」ニ關連セル件ニ關シ別電第一二八号ノ通ノ報告アリ右ノ内勞農政府ヨリ突然東支督弁ヲ任命シ來レル件ハ事實ラシカラネド爾余ハ張作霖自話ノコト故大ニ御參考トナルヘシト存スルニ付電報ス

公使ヘ電シ奉天ヘ暗送セリ

三五六 四月十七日

在ハルビン松井陸軍少將發

露支會議ハ円満ナ結論ニ到達スルコトハ困難ナル旨ノ「ドホイヤー」ノ觀測談話報告ノ件

哈市諜第二四二号

大正十二年四月十七日

在哈市 陸軍少將 松井 石根

露支會議及東支鐵道幹部ニ纏ハル露支人間ノ不和

情況ニ関スル露亜銀行支店長ノ談

四月十四日哈爾濱露亜銀行支店長「ドフォイヤール」ノ小官ニ語レル時局談左ノ如シ

一、露支會議

昨今露支會議ノ開催問題ハ吾人ノ予想外ノ進捗ヲ見漸次具体化セラレ五月中ニハ是レカ實現セラルヘキ程度ニ在ルモノノ如シ該問題カスノ如ク迅速ニ進捗セル事ニ関シ予ハ次ノ如キ事ヲ聞キ込ミタリ即チ從來張作霖ハ露支會議ニ絶對反対ニシテ北京ノ主張ヲ無視セルモ近來彼ハ前方ニ直隸後方ニ赤露ノ両敵ヲ有スルコトノ不利ナルヲ自覺シ先ツ後方ノ安全ヲ得テ以テ前方ノ敵ニ向ハントシ是レカ為赤露トノ親善ヲ計リ從來ノ主義ヲ放棄シ自ラ北京政府ニ對シ露支會議開催ノ緊急ナルヲ極力主張スルニ至レル為メナルヘシト然レトモ該會議力愈々開催セラレタル曉ニ於テ果シテ何等カノ條約ヲ締結スルニ至ルヤ否ヤ

用スルニ至ラハ支那軍ハ忽チ露軍ノ為ニ圧迫セラレ遂ニ又何等ノ葛藤ヲ惹起セスンハ已マサルヘシ要之過激派カ自己ノ欲望ヲ充タサンカ為メニ其手段ノ是非ヲ撰ハサル過去ノ事實ニ依リテ証明セラルル所ナリ從ツテ彼等カ最初支那ニ有利ナル條件ヲ以テ何等カノ協約ヲ締結スルモ彼等カ適當ノ機會ニ逢着センカ無下ニ其協約ヲ破棄シ以テ其欲望ヲ達セントスルハ極メテ明白ナリ而シテ此間ノ消息ハ独リ一東支鐵道問題ニ止マラス露支會議ノ全般ヲ齎スヘキ結果ヲ推測スルニ足ルヘク恐ラク支那人ト雖モ有識者ハ之ヲ知覺スル者ナリト信ス是レ即チ予カ露支會議カ到底円満ナル結果ヲ見ルコト難キヲ信スルト共ニ又目下支那側カ本會議ノ開催ヲ欲スルノ理由何レニ在ルヤヲ解シ能ハサル所以ナリ云々

二、王景春ト「オストロウモフ」ノ關係

東支鐵道庁内ニ於ケル支那人側ノ「オストロウモフ」排斥ハ事實ニシテ殊ニ王景春ハ其急先鋒ナリ從來支那人カ「オストロウモフ」ヲ排斥スルニ二ノ原因アリ即チ「オストロウモフ」カ常ニ自負倨傲ノ態度ヲ執リ内部ニ對シ現在東支鐵道カ大ニ改善セラレタルハ一ニ自己ノ伎倆ニ

ハ甚タ疑問ナリ往日支那某大官ハ予ニ對シテ若シ勞農露國カ無法ノ要求ヲ提出セサル時ハ何等カノ條約カ締結セラルヘシト語レルモ予ハ個人トシテ露支間ニ於ケル種々ノ情況ヲ鑑ミ本條約ノ締結力極メテ難事ニシテ恐ラクハ遂ニ決裂ニ終ルヘシト推意スル者ナリ即茲ニ露支兩國間ノ一重大問題タル東支鐵道ニ關シテ一考センニ現今ニ於テハ東支鐵道ノ實權ハ支那ノ掌握スル所ニシテ該鐵道ニ關係アル個人ノ会社即チ露亜銀行ハ殆ント有名無実ノ狀態ニ在リテ常ニ支那ノ權力ニ對シ屈服シ居レリ例ヘハ沿線ニ於テ絶ヘス行ハレツツアル支那兵ノ鐵道従業員ニ對スル暴行、馬賊ノ出沒等ニ關シテモ吾人ハ支那ニ對シ是レカ徹底の善後策ヲ要求シ得サルナリ然ルニ露支會議ニ於テ之等鐵道守備ノ條件カ假令支那ニ有利ナル如ク締結セラルルトモ若シ勞農露國ニシテ本鐵道ノ要職ニ假令一名ノ代表ヲ編入スルニ至ラハ本勞農代表ハ到底現下ノ沿線一般ノ狀態ニ満足スルコトナク事毎ニ支那軍ノ無能ヲ指摘シ勞農露國ノ援助ノ必要ヲ主張スヘク遂ニ露支間ノ感情惡化シ此ニ衝突ヲ惹起スルニ至ルヘキ事明カナリ而シテ遂ニ露國ノ鐵道守備兵若クハ鐵道警察ヲ東支線ニ使

依ルモノナリトノ宣伝ヲ為シ殆ント支那人ヲ無視シ居ルコト其ニ一ニシテ又近來「オストロウモフ」カ勞農露國代表及外人トノ間ニ秘密裡ニ政治問題ニ触レ而モ過激派ト連絡シ居レリトノ風評カ支那側ノ知ル所ナリ漸次之ヲ嫌忌シ遂ニ昨今全ク「オストロウモフ」ヲ信用セサルニ至レルコト其ニ二ナリ

最近東支運輸課長「カリーナ」技師カ日本鐵道狀況視察ノ目的ヲ以テ出張セルカ予ノ知ル処ニ依レハ「カリーナ」技師ノ今回ノ旅行ハ實際鐵道狀況視察ノ外何等ノ目的ヲモ有セサルモノナリ然ルニ支那人ハ是レヲ以テ「オストロウモフ」カ「カリーナ」技師ヲ通シテ日本ノ有力者ト何等カノ連絡ヲ計ラントスルモノナルヘシト看做シ再三「オストロウモフ」ノ表明ニ係ラス深ク其言動ニ疑ヲ挿ミ遂ニ彼ヲ排斥セントスルニ至リシコト決シテ否定スヘカラス事實王景春ノ如キハ是レ迄再三北京ノ株主總會ニ於テ彼ヲ排斥ヲ主張セリ又今日ニ於テモ「オストロウモフ」ノ排斥材料ヲ蒐集中ナリ

尚又茲ニ付言スヘキハ朱慶瀾對「オストロウモフ」ノ關係ナリ朱慶瀾ノ就任當時ニ於ケル「オストロウモフ」関

係ハ知ラス最近「ウオトキンスキー」救済会ノ当日此ノ裏面ノ目的カ一ノ過激派援助タルヲ知り「オストロウモフ」ヲ召喚シ是レヲ停止スル管ナリシモ已ニ内外人多数ノ賛同セル事実モアリ已ムヲ得ス一日丈ケ慈善会ノ開催ヲ許可セルナリ而モ朱慶瀾カ「オストロウモフ」ノ本運動ニ対シ大ニ憤慨セリト言フ

予カ確實ナル方面ヨリ得タル情報ニ依レハ張作霖モ「オストロウモフ」カ政治運動ヲ為シツアリトノ報告ヲ得「オストロウモフ」ヲ非難シツアリト言フ予モ屢々「オストロウモフ」カ労働代表等ト連絡シ在リト聞クモ未タ充分ノ証拠ヲ有スルニ非サルヲ以テ是レヲ断言スル能ハス若シ吾人カ是レニ関シ充分ノ証拠ヲ有スルニ至ラハ勿論之レヲ看過スヘカラサルモ今ヤ未タ之ニ関シ何等ノ証拠ヲ有セス

王景春カ復又株主總會ニ於テ「オストロウモフ」ヲ排斥セントスル傾向アルモ株主總會ハ本年九月カ十月ニ開カルヘク從ツテ排斥ノ企画カ近ク実現スヘシトハ信シ難ク東支理事會ハ毎週一回開カルルモ該會ニ於テ王景春カ「オストロウモフ」ヲ排斥スルカ如キコトハアリ得ヘカ

於ケル対立意見ニ付報告ノ件

公第三九〇号(寫)

大正十二年五月二日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道問題ニ関シ労働政府ト露亜銀行間妥協説

ニ関スル記事報告ノ件

本件ニ関シ客年末在巴里労働代表「スコベージェフ」ト露亜銀行代表「プチロフ」トノ間ニ協議ヲ進メ居レル次第ハ客年拙信ヲ以テ一応及報告置候処伯林特信トシテ最近当地發刊「ザリヤ」紙上ニ之ニ関連セル記事ヲ掲載致居候其確否ニ就キテハ兎モ角時節柄多少注意ニ値スヘキ事象ト思考セラレ候条其要旨ヲ摘記スレハ

「從來露亜銀行ニハ「プチロフ」ヲ頭目トスル一派ト「バトリーン」ヲ盟主ト仰ク一派トノ間ニ暗闘アリ千九百十九年相對峙シテ銀行内ニ牛耳ヲ占ムル為ラユル手段ヲ尽シテ抗争ヲ事トシタルカスル内部の闘争ハ徒ラニ外部ニ向テ双方ノ威信ヲ失墜セシムルノミナルト双方トモ同行今後ノ

ラザル事ト考ヘラル

三、露亜銀行対「オストロウモフ」問題

抑モ「オストロウモフ」ハ巴里ノ露亜銀行本店ヨリ派遣セラレタル者ニシテ露亜銀行ノ信任厚ク又其伎倆モ認メラルル所ナリ故ニ如何ニ支那側カ「オストロウモフ」ヲ排斥スルモ其赤露トノ關係証拠不十分ナル限り露亜銀行ハ「オストロウモフ」ノ留任ヲ主張スヘキハ当然ナリ又「オストロウモフ」ハ本店ニ対シ東支鐵道内ニ於ケル支那人ノ横暴及露人排斥ノ傾向等ニ関スル情報ヲ送付シアリ「オストロウモフ」ニ代ルベキ適任者モ無キ今日殊更ニ本店トシテハ飽ク迄モ「オストロウモフ」ヲ留任セシメントスルナルヘシ又支那側トシテモ充分ノ証拠ヲモ有セス單ニ感情問題ニヨリテ「オストロウモフ」ヲ徹底的ニ排斥シ得ヘシトハ考ヘラレス云々

本書送付先

軍、奉天、北京

三五七

五月二日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

東支鐵道問題ノ解決ニ関スル露亜銀行内部ニ

立場上或ル程度迄「ソウエト」露国ト協調ニ入ルヘキ時期到来セリト思考セル折柄露支會議ヲ前ニシテ「ヨッフエ」及極東革命委員會ノ態度強硬ナルニヨリ相互ニ讓歩妥協ノ道ヲ発見セシムルニ至レリ蓋シ露亜銀行ノ有力者間ニ融合一致ノ実ヲ挙クルハ臆テ東支鐵道問題ノ解決ニ当リ自方ニ有利ノ地歩ヲ占ムル賢策ナルヲ自覺セルニ外ナラサルヘシ「プチロフ」及「バトリーン」ノ會見ハ近ク巴里ニ於テ行ハルヘキカ労働政府ト協調ヲ求ムトスルニ露亜銀行ハ二案アリ一ハ「プチロフ」ノ主張スル所ニシテ他ハ「バトリーン」ノ提唱スルモノニシテ「プチロフ」ハ「ウエンユトルグ」(海外貿易委員)ニ屬スル「スコベージェフ」及「クラシン」ノ徒ト専ラ東支鐵道問題ニ付協議ヲ進メ居レルニ對シ「バトリーン」案ハ「チチェリン」、「クレスチンスキー」等外務省系統及「ソウエト」政權ノ財政ノ樞軸ヲ握ル「ソコリニコフ」及「シエイマン」ヲ相手トシ評議セラレツツアリ兩案ハ内容ニモ多大ノ懸隔アリ「バトリーン」ハ露亜銀行ノ組織ノ根本的改造進シテハ「ソウエト」化ヲ主張スルニ對シ「プチロフ」ハ現行組織ノ露亜系機關ノ儘東支鐵道ニ関シ「ソウエト」政府ト協議ヲ進メムトスルニ在

リ今次ノ巴里会见ニ於テ孰レノ意見カ勝ヲ制スルヤ目下ノ
処不明ナリ云々

右何等御參考迄此段及報告候 敬具

三五八 七月十七日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ウスリ鐵道行キ貨物通過ヲ差止ムル護路軍總
司令部ノ命令ニ付報告ノ件

第二〇六号 (七月十七日接受)

七月十五日「ボグラニチナヤ」駅長ハ護路軍總司令部ヨリ
烏蘇里鐵道行キ貨物通過ヲ差止ムヘキ命令ヲ接受シ同時ニ
「ボグラ」支那税関ニ対シテモ通関禁止スヘキ指令アリタ
リ右ニ関シ東支鐵道長官並税関長ハ支那側ニ対シ差止理由
ニ付照会セルモ道尹公署初メ何レモ事軍憲ノ命令ニ属シ不
明ナリト云ヒ朱總司令側ハ何等理由ヲ明示セス惟フニ松花
江黑竜江航行問題ニ関連シ水上ノ封鎖ヲ以テ足レリトセス
陸路ニ依ル露支国境ヲ封鎖シテ露国側ヲ苦シメントスル報
復手段ニアルモノノ如ク東支鐵道トシテハ利害關係大ナル
為抗議中

尚右国境封鎖ニ依リ邦人ノ受クル影響ニ付日本人商業會議

所会頭ノ極秘トシテ本官ニ語ル処ニ依レハ最早ヤ北滿特産
ノ輸出モ過キ夏枯閑散期ニ入リシ為直接ノ損害ヲ受クルモ
ノ邦人積出ノ大豆約十車見当ナルモ二十日迄契約モノノ豆
糟約二十車九月一日浦潮渡ノモノアリト云フ

国境閉鎖ハ長日ニ亘ルモノニアラサルヘシト観測セラルル
モ不取敢電報ス

因ニ西行貨物ハ云フニ足ラサル為カ滿州里方面ニ於テハ何
等異状ナシ

三五九 七月十八日 在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ボグラニチナヤ駅ニ於ケル貨物差留メ問題ノ
ソノ後ノ經過ニ付報告ノ件

第二〇七号 (七月十八日接受)

「ボグラニチナヤ」駅ニテ差留メラレタル列車ハ東支鐵道
長官「オストロモフ」ト特別区行政長官朱慶瀾ト交渉ノ
結果浦塩經由對外輸出物ノミニ限り十七日解禁サレタリ但
シ支那側ノ對露經濟封鎖ハ依然繼續シ沿海州行及「ザバイ
カル」行ノ貨物ハ全部国境駅ニテ齊多官憲ノ為差押ヘラレ
居レリ右ニ對シ当地露字新聞ハ曰ク勞農側ニハ大ナル苦痛

第六六三号 (七月二十九日接受)

本使発哈爾濱電報

第九号

七月二十八日露亞銀行「プチチウゲナン」及東支鐵道「プ
シユカロフ」本使ヲ来訪シ王景春及馬忠駿ハ「オストロモ
フ」ヲ驅逐シ東支鐵道管理ヲ支那側ノ思フ儘ニ為サント計
画シツツアル趣ニ付自分等ハ本日發貴地ニ向ヒ彼等ニ面会
シテ抗議シ若シ聴カレザルニ於テハ華盛頓條約調印各国ニ
訴フル所アルベキ旨申入ルル積リナルニ付本使ノ「モウラ
ル、サポート」ヲ得タキ旨申出タリ

依テ東支鐵道ノ今日アルハ「オストロモフ」ノ伎倆ニ依ル
コト大ナルハ本使ノ認ムル所ナルノミナラズ同人ハ日本側
トモ良好ナル關係ニ在ル次第ニ付支那側ニ對シテ取ルベキ
措置ニシテ妥当ナル限り支持ヲ客マザルベキ旨ヲ答ヘ置キ
タリ

外務大臣ヘ転電セリ

三六二 八月二日 丸山朝鮮總督府警務局長ヨリ
田中外務次官宛

露国ガ東支鐵道回収ニ乘リ出ストノ風評ニ付

報告ノ件

高警第二六一〇号

(八月五日接受)

朝鮮總督府警務局長

露国ノ東支鐵道回収説ニ関スル件

近来北滿地方ニテハ日露協商ノ進行ニ件ヒ露国カ東支鐵道ヲ回収セントスルヤノ風説盛ニ行ハレ赤軍ハ既ニ哈爾濱其他沿岸地方ニ潛入シ其機會ヲ窺ヒツツアルヲ以テ何時事變勃發スルヤモ測ラレス殊ニ同鐵道露国人幹部等ハ本件ニ関シ対策ヲ講究中ナル旨囑サレ殊ニ最近在哈爾濱「ナハロフカ」赤党労働者集会所ニ於テ一労働者ハ「吾人ハ支那人ヲ怖ルヘカラス東支鐵道其他露国ノ事業ハ茲數句ニシテ吾等露国人ノ手ニ歸スヘシ本件ハ日露協商ニ於テ日本ハ之ニ対シ黙過スヘキ内約成立セルニ依ルモノナリ」ト演説セシ為メ聴衆一般ニ感興ヲ与ヘタリト、近時同鐵道露国人従業員等ハ漸次過激派ニ傾キツツアリトノ説アル折柄ニ付或ハ該鐵道ノ管理ニ就テモ何等カノ変化ヲ来サザルカヲ疑フ者アリ

發送先

外務次官 内閣書記官長 拓殖事務局長

東支鐵道管理局長「オストロウーモフ」氏ノ当省清水囑託ニ為シタル談話要領別紙御参考迄ニ送付申上候

露亜銀行ハ「サウエート」政府ト妥協セリトノ説

アリ真偽如何

「オ」氏ハ頭書ノ問ニ対シ左ノ如ク答ヘタリ昨年露亜銀行ヨリ「サウエート」政府ニ対シ妥協ヲ申込ミタレトモ「サウエート」政府ハ露国ノ銀行ハ悉ク国有ニ歸シタルヲ以テ露国ニハ私立銀行アル筈ナシトテ露亜銀行ノ存在ヲ認メス。從テ露亜銀行ノ權利ヲ毫モ認メサルカ故ニ終ニ妥協成立セサリキ。若シ「サウエート」政府ニシテ幾分ニテモ露亜銀行ノ權利ヲ認メシナランニハ或ハ互讓ノ途ニ依リテ妥協点ヲ見出シ得タリシヤモ測リ知ル可カラス。

吾人ハ東支鐵道敷設權ノ所有者ハ露亜銀行ナルカ故ニ列国ノ承認スル露国ノ正当政府樹立セララル迄ハ「コンセツショナー」タル同銀行ト支那政府トノ間ニ千九百二十年十月二日ヲ以テ締結セラレタル協約ニ遵ヒテ東支鐵道ヲ処理セサル可カラス

從來互ニ確執シタル露亜銀行ノ両巨頭「ブチーロフ」及

(以下一行不明)

三六三 八月七日

在リガ上田書記官ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カラハンノ北京行ノ使命ハ東支鐵道ノ回収ニ

アリトノ報道ニ付報告ノ件

第二〇号

(八月八日接受)

莫斯科發「ラトビア」通信ニ依レバ「カラハン」ハ北京ヘ向ケ出發シ同人ノ主ナル使命ハ現在反「ヴォルシェヴィキ」団体ノ手ニ在ル東支鐵道ヲ全然労働政府ノ手ニ収ムルニ在リト

三六四 八月十三日

鐵道省外国鐵道調査課長ヨリ
出淵亜細亞局長宛

露亜銀行ト東支鐵道ノ關係ニ付オストロモフ

ヨリ鐵道省清水囑託ニ対シ為サレタル談話要

領報告ノ件

大正十二年八月十三日

鐵道大臣官房外国鐵道調査課長

外務省

亜細亞局長殿

「バトーリン」カ最近互ニ握手シ復ヒ「バトーリン」カ銀行ノ要路ニ立ツニ至リタルハ洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所也備考

露亜銀行ニハ重役会及參議會ヲ置ク

日本ノ總裁ニ当ル

重役會議長 「ブチーロフ」(露人)

副總裁ニ当ル

同 副議長 伯エゼールスキー(旧露西亞人)
今ノ波蘭人

參議會議長 ライデル(仏人)

同 副議長 バトーリン(露人)

周知ノ如ク「バトーリン」ハ「スタヘーエフ」商会ノ首班者ニシテ余(オ氏)トハ親交深ク特別ノ私的關係アルカ故ニ余ハ七月二十六日同氏ニ宛テ次ノ如キ電報ヲ發セリ

「東支ノ業績漸ク挙リ財政上ノ窮迫漸ク緩和セララルニ從ヒ支那ノ東支ニ対スル圧迫益々甚タシク「サウエート」政權ハ之ヲ奇貨トシ新聞其他有ラユル手段ヲ用ヒテ東支露国側幹部ノ攻撃ニ努メツツアリ当地ニ於ケル仏国代表者ハ東支露国側幹部ノ政策ヲ終始支援シ居

レリ今後露亜銀行ハ東支問題ニ関シテハ常ニ同鉄道ニ對シテ厚意ヲ有スル日仏兩國政府ト協調ヲ保チテ行動スルヲ最モ必要ナリト思惟ス」

(右ハ「オストロウーモフ」氏ノ清水ニ読ミ聴カセタル電文ノ要旨ナリ)

元來東支鐵道ハ仏國ノ資本ニテ布設セラレタルモノナルカ故ニ仏國カ同鉄道ニ對シテ特別ノ利害關係ヲ有スルハ言ヲ俟タス。日本モ亦地理上東支ニ對シテ大ナル利害關係ヲ有ス。東支ニ関スル事ハ利害關係ナキ英ニ諮ルノ要ナク米ト与ニ議ス可カラス若シ露亜銀行幹部カ余ノ「パトリリン」ニ宛テタル前記ノ電報ニ背馳セル政策ヲ取ルニ至ラハ余ハ直ニ桂冠スヘシ目下ノ狀勢ニ於テハ若シ余(オ氏)ニシテ職ヲ抛タンカ管理局長ノ椅子カ直ニ支那人ノ手ニ落ツルハ火ヲ賭ルヨリモ明カナルカ故ニ余ハ現職ヲ去ルコト能ハサル也

日本國民ハ沈滞セル目下ノ財界ヲ振興センカ為メニ日露通商ノ復旧ヲ冀フナラン假令日露ノ通商開カルモ「サウエート」露西亞ノ現狀ヨリ見レハ通商ニ依リテ日本ノ國富ヲ増スカ如キコトハ期待ス可カラサルカ故ニ為政者

ハ國民ノ興奮セル神經ヲ鎮ムル程度ニ於テ「サウエート」露國代表者ト協商ヲ進ムレハ可也。日本カ今次ノ協商ニ於テ誠意ナキモノヲ相手トシ「サウエート」政府承認問題ニ迄深入リスルコトハ日本ノ為メニ悲ム所ナリ余ハ屢々前烏鉄長官「カーステリ」技師、現烏鉄長官「シュニコーフ」、極東交通管理庁管理官「ミハイロフ」及「ベリヤーノフ」等ノ如キ「サウエート」露國ノ鐵道代表者ト數次會見シテ「エゲリシエリド」問題等ニ就キ意見ヲ交換シタレトモ彼等ノ誠意ノ毫モ認ムヘキモノナシ

「サウエート」露國ノ当路者ハ日露協商ノ前途ヲ樂觀シ必ス協商ノ成立スヘキヲ信シ該協商ノ結果本年中心ハ東支ハ必ス「サウエート」政府ノ手ニ帰スヘキモノト思惟シツツアリ

數日前ニ知多ヨリ当地ニ來着シ現ニ滞哈中ノ極東交通管理庁副長官兼軍事交通部長「パールスキー」技師ノ一行中ニハ風説ニ依レハ沿海州赤軍總司令官「ウボレーウイチ」カ微行シテ之ニ加リ居リ專ラ鐵道守備ニ関スル計畫ヲ立テツツアルモノノ如シ之ニ就キテハ七月二十八日付

「ザリヤー」紙ノ既ニ報スル所也而シテ彼等ハ本年中心ハ必ス赤軍カ東支ノ守備ニ當リ得ルモノト信シ居レリ若シ彼等ノ予期ニシテ現実セハ折角今日ノ狀態ニ改善セラレタル東支ハ再ヒ荒廢シテ數年前ノ旧態ニ復スヘシ露亜銀行極東總支配人「プチグゲネン」ハ「ジャランツン」ニ避暑ノ目的ニテ本日(三十日)午後一時五十二分來哈スヘシ曩ニ巴里ニ赴キタル重役「プシカリョーフ」モ「プチグゲネン」ト同行著哈ノ予定ナリ

何時滿州里會議カ開カルヘキカ又株主總會ハ何時頃開催セラルヤト問ヒシニ「オストロウーモフ」氏ハ目下ノ所更ニ見當付カスト答ヘタリ

三六五 八月二十一日

在奉天船津總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

東支鐵道管理問題ニ付カラハントノ會見ニ先
立チ日本側ノ意向ヲ承知シタキ旨張作霖ヨリ
申出ノ件

第一五〇号

(八月二十二日接受)

二十一日張作霖ハ答札ノ為小官ヲ來訪暫ク雜談ノ後左右ヲ斥ケ極秘トシテ大要左ノ如ク語レリ

七 東支鐵道管理問題 三六五

今回「カラハン」カ齎シタル使命ハ勞農政府承認等其他種種ノ目的ヲ含ミ居ルハ明ナルガ就中目下東支鐵道經營ノ局ニ當リ居ル白黨系人物ヲ排斥スル為支那政府ノ相當諒解ヲ得ムトスルハ其重要使命ナルガ如ク推測セラル蓋シ東支鐵道ハ白黨ノ最頼ミトスル牙城ナルガ如キ觀アリ從テ勞農政府ガ東支鐵道經營ノ權ヲ白黨ノ手ヨリ奪回セムト欲スルモ亦無理ナラヌ次第ナリ

昨今在北京王正廷ヨリ頻ニ「カラハン」ノ入京ヲ督促シ來リ居ル模様ナルガ自分(張)ガ最怖ルルトコロハ「カラハン」ガ北京政府即チ直隸派ト東支鐵道ニ関シ或種ノ協定ヲ遂ゲ勞農側ガ該鐵道經營ノ局ニ當ルガ如キコトナキヤニ在リ万一右ノ如キ事態トモナラバ自分ヲ非常ナル危地ニ陥ルル結果トナルヲ以テ之ニ對シ予メ相當ノ予防ヲ施サザルベカラズ就テハ自分ハ此際直隸派ノ機先ヲ制シ先ヅ「カラハン」ト東支鐵道ニ関シ或程度ノ諒解ヲ遂ゲタシト考ヘ本日ハ之ヨリ主要ナル部下ヲ集メ討議研究ヲ為ス心算ナルモ此際本問題ニ對スル日本政府ノ御意嚮ヲ至急承知致シタク今日「カラハン」ト會見スル筈ナルモ日本政府ノ御意嚮ヲ承知セザル間ハ具體的協議ニ入ラザル心算ナリ張右ノ如キコ

七 東支鐵道管理問題 三六六

トヲ申出デタル真意ハ奈辺ニ在ルヤ鳥渡付度シ兼ヌルモ小官ヨリ一日前ニ着任シタル米國總領事が会见ヲ申込ミタルニ病氣ト稱シテ之ヲ拒絕シ小官ノ申込ニ對シテハ直ニ之ヲ応諾シ会见ノ際モ其底意ハ兎モ角外面丈ケハ滿腔ノ好意ヲ表シ數年來ノ旧知己ノ如キノミナラズ滿州ニ於ケル日支ノ關係ハ極メテ密接ナルヲ以テ今後ハ何事モ打解テ隔意ナキ様致シタシト述べ本日モ再ビ之ヲ繰返シ此趣旨ニ基キ日本政府ノ御意嚮ヲ承知セムトスルニ過ギズ他意アルニアラズ但張作霖ガ斯ノ如キ重要事件ニ關シ日本政府ノ意嚮ヲ窺ヒ居ル等外間ニ洩ルルガ如キコトアラバ由々敷キ一大事故此点ハ飽迄極秘ニ願ヒタシト付言セリ

小官ハ各國ガ未ダ勞農政府ヲ承認シ居ラザル今日勞農政府ト斯ノ如キ協定ヲ遂グルハ慎重ナル考慮ヲ要スル次第ナルモ御申出ノ趣ハ早速本國ニ電報スヘシト答ヘ置キタリ何分ノ儀御回電ヲ請フ

在支公使ヘ轉電セリ

三六六 八月二十四日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

露亜銀行ト勞農政府ノ妥協ニ付オストロモフ

ルコト

右御參考迄此段及報告候 敬具

三六七 十月十八日 在滿州里田中領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

知多過激派ノ勞農露國ニ依ル東支鐵道回收論

ニ關スル情報報告ノ件

機密公第五六号

大正十二年十月十八日

在滿州里

領事代理 田中 文一郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

東支鐵道及日露交渉ニ對スル「チタ」過激派ノ態

度ニ關スル情報

白派露人情報者ノ報告ニ依レバ最近「チタ」ヨリノ來客談ニ依ルニ「チタ」過激派有力者間ニ喧伝セラルル所要領左ノ如シ

一、勞農露國ハ速ニ東支鐵道ヲ回收スヘシ若シ外交手段ニ依リ之ヲ解決シ得ザレバ兵力ヲ用フベシ

二、露國ノ外東支鐵道ヲ其手中ニ収メントスルモノニ日米

七 東支鐵道管理問題 三六七 三六八

五三四

ノ態度ニ關スル件

機密第二五三号

(九月一日接受)

大正十二年八月二十四日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

露亜ト勞農政府妥協ニ關シ「オストロウモフ」ノ

態度ニ關スル件

「オストロウモフ」長官ノ直話ニ依レハ約一ヶ月前在巴里露亜銀行株主「バトリン」ハ書面ヲ以テ「オ」長官ニ對シ哈爾賓ニ於テ勞農側ト交渉スベク様申來レルモ「オ」長官ハ直ニ電報ヲ以テ左ノ通り回答致シタル趣ニ候

一、東支鐵道ハ支那及勞農露國ノ圧迫ヲ受ケツツアルコト

一、露國ハ露亜銀行ヲ東支ヨリ除外セントスルコト

一、東支露人幹部ハ仏國ト共鳴スヘキコト(仏國側株主トノ意ナランカ)

一、列國カ東支ニ對シ好意ヲ有スルコト並ニ東支ニ關スル問題ヲ解決センカ為ニハ殊ニ日本ノ諒解ヲ必要トス

仏及張作霖アリ日本ハ同鐵道ヲ混亂セシメ之ガ占領ノ口実トセントシ又張作霖ヲ援助ス最近ノ土地課廢止ハ実ハ日本ガ之ヲ為サシメタルナリ

三、露國カ兵力ヲ以テ東支鐵道ヲ占領スルニ當リ最モ危險ナルハ日本ナレバ今度ノ震災ヲ利用シテ何トカ交渉ヲ為ス必要アリ

(右第一及第三項ハ「チタ」官憲ヨリ「モスクワ」政府ニ既ニ建策セリト)

四、過激派ハ日支離間ノ為メ支那人ニ對シ日本ハ蒙古人ヲ武装セシメテ支那ニ反抗セシメントシツツアリトノ風説

ヲ盛行セシメツツアリ

右報告申進候 敬具

三六八 十月十九日 在ハルビン山内總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

貨物輸送ヲメグル滿鉄ト東支鐵道間ノ競合問

題ニ關スル件

公第七一〇号 (十一月二日接受)

大正十二年十月十九日

在哈爾賓

五三五

総領事 山内 四郎（印）

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

満鉄ノ北進策ニ対スル一般露人ノ態度並東鉄側ノ

立場ニ関シ報告ノ件

両三年来満鉄カ社は方針トシテ北滿進展策ニ意ヲ注キ着々其ノ歩武ヲ進メ来レルヤ其ノ一挙手一投足ハ悉ク東支鐵道ノ経営方針ニ反映ヲ及ホシ貨物連絡ノ為屢次ノ運賃協定ヲ必要トシ表面妥協互譲ノ下ニ提携ノ実ヲ示セル如クナルモ窮極ノ目的ハ漸ク繁カラントスル貨物与奪戦ヲ緩和セシメントスルモノニ外ナラス端のニ云ヘハ此ノ協定ハ恰モ資本主義ノ横溢スル所生存競争緩和ノ下ニ協定ヲ計ラントシテ益其ノ鋭鋒ヲ閃メキ来ラントスル現代資本主義競争熱ノ一大縮図ト見ラレサルニ非ラス昨年協定ヲ見タル東支南滿連絡會議以来「大連乎浦潮乎」トノ標語ハ東支鐵道ヲ中心トシ烏蘇里鐵道其ノ他之ニ利害關係ヲ有スル人士ノ間ニ口ニ筆ニ論難セラレ今以テ貨物吸収策トシテノ比較論ハ北滿經濟界ニ於テ主要題目視セラレ居レリ八月小日向氏經營ニ係ル國際運送会社カ当地ニ支店ヲ設置シ業務ヲ開始スルヤ満鉄カ貨物吸収策ノ傍系機關トシテ活躍スルモノナリトテ露

国新聞界ハ一斉ニ警鐘ヲ乱打シ十月初旬偶々満鉄運輸部長藤根技師カ視察ノ目的ヲ以テ東支鐵道沿線ノ見学旅行ヲ試ムルヤ「ザリヤ」紙ハ「藤根技師来哈ノ目的満鉄ノ陰謀」ト題シ恰モ東支南滿連絡協定期限満了トナレル際トテ満鉄ハ協定続行ニ際シ南行貨物ニ対スル運賃割戻撤廃（昨年南行貨物ニ対スル運賃引下ケノ際満鉄ハ東支ノ欠損補償トシテ一布度六錢ヲ支払フ協定所謂百万円提供問題）ヲ主張シ且運賃比率ヲ哈爾濱中心主義トスヘシトノ提言ヲ申入レ東支鐵道ハ烏鉄側ヨリノ攻撃ヲ避クル為目下秘密裡ニ協議ヲ進メツ、アリトノ誇大的報道ヲ敢テシ続テ満鉄ハ此協定ニシテ要求容レサレハ寧ロ協定ヲ破棄シ國際運輸ヲシテ馬車輸送ニ当ラシメテ貨物ヲ吸収シ他面四洮鐵道ヲ齊々哈爾濱ニ延長セシメ露骨ナル競争の態度ニ出ツル準備ノ下ニ和戰兩様ノ策ヲ用ヒツツアリトノ憶測記事ヲ掲ケ利害反馳スル方向ニ向ツテ一種ノ謎ヲ投シタル為世人ノ耳目ヲ聳タシメ露國商業會議所スラ秘密會議ノ結果カ荷主ニ及ホス影響ニ付不安ヲ感シ非常會議ヲ催ウセル由ニテ一露紙ノ如キハ商業會議所トモアルヘキ真面目ナル機關カ為ニスル煽動的の記事ニ乗セラレ水禽ノ羽音ニ驚異セル行為ヲ冷笑シ居レリ藤根氏ノ来哈ニ関シ秘密會議云々ハ満鉄側東支側ノ弁明ニヨリ底意アル煽動的

報道ハ釈明セラレタレトモ満鉄ノ積極の進出態度ヲ烏鉄ニ対スル露骨ナル挑戦ト見ル勞農側鐵道当局者ハ左党系新聞紙ヲ通シテ東支満鉄攻撃ノ宣伝ヲ試ミ居リ「ツリブーナ」紙ノ如キハ東支鐵道經濟調查局長「ミハイロ」氏ノ満鉄ヨリ報酬金領収セリトノ報道ヲ掲ケ連日ニ亘リ同氏ニ対スル誹謗攻撃ヲ開始シ東支當局ハ露國ノ利益ヲ念トシ居レリト云フモ同一利害ヲ有スル烏鉄即チ露國鐵道ヲ袖ニシテ満鉄ト秘密協定ヲ試ミ東支ハ南滿鐵路ノ支線乃至培養線ノ役割ヲ演シツツアリトシ又「ミハイロフ」氏ノ如キ自家ノ利害ヲ満鉄ニ售リツ、アル人士アル迂愚サヲ冷笑スル底ノ筆致ヲ弄シ居レリ左党側カ好シテ用ユル大連尊シカ露國ノ浦潮ハ卑シカノ題目ハ較モスレハ満鉄ノ御用線呼ハリセラルル東支鐵道当局者ニ取リテハ一大頭痛ノ種ニシテ第七回長春協定以後ト雖モ浦潮向運賃ハ大連ニ比シ三、四哥方安ク且東行輸送量ハ年々増加ノ傾向ニアリト政変ニ妨ケラルルコトナクンハ旧ニ倍シ發展ノ程度ヲ一層拡充スヘシト数字ヲ掲ケ弁明相努メ居レルモ満鉄ノ北滿進展策ハ東支鐵道經濟勢力圈内ヘノ割込ニ外ナラサル為常ニ脅威ノ種ナラサルナク「ザリヤ」ノ所謂満鉄ノ陰謀云々ノ宣伝記事ハ続イテ「ミ

ハイロフ」氏ノ收賄説云々ハ其ノ真偽ハ別問題トシ門外漢ノ面前ニハ飼犬ニ咬マルル危険サ（満鉄側ヨリノ）ヲ暴露シ世人ヲシテ一層満鉄ノ進出ニ驚異ノ感ヲ起サシムル資料ヲ投シタルモノト云フヘク夫レカ、アラヌカ東支ノ御用系ヲ勤ムル「コムメルチェスキー・テレグラフ」紙ハ「ノーボスチジーズ」紙ヤ「ザリヤ」紙ノ東支攻撃記事ニ対シ無稽説ヲ中心ニ大騒ギト題シ反駁ヲ試ミタル言句中ニ於テ「ザリヤ」紙カ如何ナル方法ニテ満鉄ノ陰謀ヲ知悉セルカハ敢テ究断セサルモ満鉄カ極メテ浦潮仕向ニ輸出ノ發展ニ不安ヲ感シ南下吸収ノ意向ヲ策シツ、アルヲ隠シ居ラサルハ吾人ノ承服スル所ナリ満鉄ハ屢次ノ連絡會議ニ於テ哈爾濱ヲ基点トシ自然的均衡運賃ノ制定ヲ希望シ之ヲ提言セリ繰返シ云フ満鉄ハ前述ノ希望ヲ決シテ隠スコトナク常ニ明白ニモ秘密ニモ此種ノ意図ヲ藏シ居レリ「ザリヤ」ハ南滿ノ秘密的野望ト題シ「恰モ亜米利加大陸テモ発見シタル如ク叫フモ敢テ珍トスルニ足ラス」云々と之レ世人ノ抱ケル疑惑ヲ避クル為東支カ満鉄ニ臨メル態度ヲ公然示シタルモノニ非サルナキカ而シテ「コンメルチェスキー」紙ハ同様ノ紙面ニ於テ「重要スヘキ危険」ト題シ四洮鐵道開設間近

キヲ報シ其ノ及ホスヘキ影響ニ関シ言及シタルハ正ニ滿鉄第二段ノ策戦計画ニ対スル東支側ノ対策ヲ喚起セントスル警鐘ノ声ト見ルヘク其ノ要旨ヲ摘記スレハ運賃協定カ続行セラル、トセハ大連平浦潮乎ノ輸出云々ヲ中心トシ捲キ起サレタル喧騒説ノ如キハ何等重要実質のモノニ非サルモ日本資本事実滿鉄ノ資本援助ノ下ニ建設セル新線四平街—鄭家屯—洮南府間鐵道ニ依ツテ生スル東支鐵道ノ影響ハ実質上ノ危険ヲ招来スルモノトシテ此鐵道ノ出現ハ廳テ東支ノ存立並其ノ財的保証ニ直接ノ脅威ヲ齎シ来ルヘシ且下東支ノ全予算ヲ主トシテ南部線ノ收入ヲ基礎トシ南向(穀物)ニ甚タ高率ノ運賃ヲ課シ同様ニ輸入貨物ニ対シテ南ヨリスルモノニハ一層障害の高率運賃ヲ課シ居レリ長哈間二百三十二露里ノ間ニ於ケル主要輸入品綿布ニ対シセ七〇哥六ノ運賃ト大連長春間六百六十露里ノ同一品運賃五五哥ヲ對比セハ思央ハニ過クルモノアラン四洮開通ノ暁西部線向貨物ハ全ク低廉ナル運賃ノ方向ヲ辿リ洮南府ニ達シ更ニ齊々哈爾ヘハ馬車輸送ヲ以テ輸入セラルヘク東支ハ此線ノ輸入貨物ヲ失フヘク同様ニ輸出貨物約一千四百万布度ハ此新線ニ吸収セラルヘシ

(齊々哈爾—大連(哈爾濱經由)四五、六
齊々哈爾—大連(四平街經由)三八哥)

カシテ東支鐵道一致連合ノ下ニ(東支ヨリ技術上ノ援助ヲ受ヘ且且軌条車輛機關車ヲ貸与シ設備費ヲ少ナカラシムル)共同進行ヲ策シ資金調達困難ナラハ露支兩國人士ヨリ投資ニ任セシメ東支鐵道培養線会社タラシムルコトニシテ一方支那政府ニ対シテハ賓黑線並齊々哈爾—大齊—洮南間(齊、大間ハ七十五露里)線ノ敷設ヲ第三者ニ委セハ東支ハ運賃ノ減収ヲ来スヘキニ付支那側各機關(鐵路軍ト鐵道警察ト東省警察管理処等)ニ対スル補助金ニ影響スヘキ旨ヲ予告ヲ發シ反省ヲ促スコトヲ記述シアリ鐵道本社モ既ニ會議ヲ開キ之カ為兩副總裁兩理事並東支鐵道總代表者ヲ以テ委員會ヲ組織シ一方王督弁ヲ通シテ支那政府各官憲ニ対シ四洮鐵道並齊々哈爾ヘノ延長計画ノ東支鐵道ニ及ホス絶大ノ影響ニ付通告スルコトヲ議決セリト伝ヘラル

以上ニ依リ東支ノ将来ノ意向ハ充分洞察シ得ヘク思フニ賓黑線ノ開通ハ急務中ノ急務トシテ露亜銀行直接ノ活動トナリテ現ハルヘク或ハ行悩メル黑竜江省議會ノ賓黑線敷設案ニ対シ露支人資本家勸説ノ下ニ東支側ヨリ嘗ツテ露支兩國人計画ノ松北鐵道ヲ完成セシメルト同一ノ筆鋒ヲ以テ敷設計画ヲ促成セシムル方策ニ出ツルコト疑ヒナカルヘシト信セラル尚「スキゲルスキー」氏租借森林カ既ニ伐木数量前

以上ニ依リ十一月初旬開通ト同時ニ滿鉄側ヨリ更ニ新ナル一大脅威加ハルヘク此多難ノ秋ニ際シ東支鐵道ノ幸福ヲ保全スル為ニハ特ニ慎重ナル意ヲ注キ万全ナル対策ヲ講セサル可カラスト四洮線ノ開通ハ続イテ更ニ洮齊線延長敷設ニ見ルヘキハ一点明カニシテ聞ク処ニ依レハ東支鐵道ハ自家ノ蒙ムル大打撃ナルヲ看取シ既ニ東支本庁ニ対策意見書ヲ作成シ東支鐵道本社ニ提出セリト其ノ内容ハ通過線ト東支トノ里程比較ヨリ始マリ此新線開通ノ暁ニハ東支鐵道ヨリ年々二千六百万布度(前掲ノ数字ト異ナルモノ本數字ハ商業部調査ト云フ)ノ穀物輸送ヲ奪ヒ此外家畜輸送モ合セ東支鐵道ハ運賃四百万元以上ノ減収ヲ見ルヘシト述ヘ対策方法トシテ(一)洮齊線ニ対シ東支鐵道ヨリ出資スルカ何等カノ方法ニ依リ資本割込ヲ策シ輸送貨物ヲ此ノ代償トシテ南滿線ト同等ノ利益分配ヲ受クヘシ(二)東支鐵道ノ培養支線トシテ賓黑線ヲ急速敷設セシメ東支線ト連絡ノ下ニ地方開發ヲ促シ貨物ノ増加ヲ策スルコト(三)森林業者ノ為ニ敷設セル引込線事實支線ヲ培養支線ニ改ムルコト(四)何等カノ方法ヲ以テ荷主ニ特權ヲ与フルコト又ハ滿鉄ノ國際運輸ニ於ケル如ク御用系運送倉庫会社ヲ設ケ貨物吸収ヲ策スヘシ而シテ其ノ手段方法トシテハ黑竜江省ヲ動

途予測セラレ從テ引込線ノ必要モ不用ニ帰セルト、「コツレフスキー」森林区ノ敷設線モ盜伐防止ノ為東部線ヨリ北進シテ裏面松花江下流ニ延長セシメントノ企画ヲ有シ東支鐵道ハ比年穀類產出量ヲ増シツ、アル松花江下流地方ヨリ此短線ニヨリ穀物吸収策ヲ見込ミ目下攻究中ニシテ此計画ニシテナランカ旁衰退ノ徵アル東部線貨物ノ繁榮策トモナルコトトテ或ハ近ク實現セラルヘク「ウオスキトルス」運送会社ハ昨年以来奨励金下付ノ契約ニテ未開地方ノ貨物吸收策ヲ実行シ来レル關係上正ニ國際運輸会社ノ役割ヲ演スヘク資格ヲ有シ前掲ノ意見書中ノ計画實施ハ全然新案ト見ルヘカラス要ハ資金捻出策如何ニ帰着スル問題ト思考セラル右此段御參考迄及報告候 敬具

三六九 十月十九日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

赤軍ニヨル東支鐵道占領計画ノ風聞ニ付報告

ノ件

第七七一号

(十月二十日接受)

本官發哈爾賓宛電報第二七号

情報及風説ニ依レバ当地官憲ハ最近數日来先ヅ「ゲ、ペ、

七 東支鉄道管理問題 三七〇 三七一

ウ」隊ヲ次ギニ赤衛軍ノ大部隊ヲ「グロデコウヲ」「ボグラ」方面ニ輸送シ国境方面ニ於テハ既ニ戦闘アリ負傷兵ニシテ尼市「ウゴリナヤ」方面ニ後送セラレタルモノ相当數ニ達セルガ右ハ露側ガ西欧ノ混乱現狀ト日本震災後ノ国力乃至支那最近ノ紛争等ノ虚ニ乘ジ東ハ当方面ヨリ「ボグラ」ヲ北ハ「ブラゴエ」ヨリ哈爾濱ノ背後（千數百ノ兵ニテ）ヲ西ハ「ザバイカル」ヨリ滿州里ヲ各三方ヨリ挾撃シテ東支鐵道ヲ占領セントノ計画ニシテ十數日來在哈爾濱支那側露人ヨリ早晚此種計畫ノ實現セラルヘキ情報当地同派露人間ニ伝ハリ居タリ云々ト右真相ハ未ダ確メ得サルモ当方面軍隊ノ西方輸送ト一部軍需品ノ輸送ハ事實ナルニ付折角探究中ノ処貴方面ニ何等異動無キヤ御回電相成タシ

外務大臣へ転電セリ

三七〇 十月二十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

赤軍ニヨル東支鐵道占領計畫ノ風説ニ関シ確

認セル点報告ノ件

第七七四号

（十月二十一日接受）

往電第七七一号情報カ露支現時ノ大局上有リ得ヘカラサル

五四〇

コトノ様ニ考ヘラレタルニ依リ為念「ハ」外露側有力家及当地支那總領事ニ確メタル処何レモ風説ハ盛ナルモ實際斯ル不穩ノ事ナキコト現ニ東支鐵道ノ交通連絡平常ノ通りニシテ「ハ」ハ十八日夕哈爾濱ヨリ知人ノ婦浦シタル旨及支那領事ハ「ボグラ」行「クリエル」ガ十九日無事帰浦シタル（「ボグラ」ニ露支双方多數ノ軍隊カ駐屯セルハ認メタリト）旨ヲ語リタリ本件ハ或ハ白党殘徒乃至馬賊等討伐ノ為カ又ハ演習乃至示威運動ノ目的ニテ軍隊ヲ動カシタルヤトモ察セラルルモ其ノ方面ハ未詳ニシテ本件ハ往電第七七二号情報ト共ニ為ニスル者ノ宣伝ナラント察セラル不取敢

哈爾濱へ転電セリ

註「クロンスタット」占領ニ関スル情報ナリ

三七一 十月二十三日 在奉天船津總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛（電報）

赤軍ニヨル東支鐵道占領計畫ノ風説ニ関シ張

作霖ヨリ得タル情報報告ノ件

第二二六号

（十月二十四日接受）

貴電第一三一一号ニ関シ

「オストロウモフ」鐵道長官賜暇ニ関スル件

二十二日夜張作霖ニ面会シタル際夫レトナク浦潮方面ノ狀況ヲ問ヒタル処張ハ詳細ノ事情不明ナルモ関稅其ノ他收入ノコトニ関シ「ボクラニチナヤ」一帯ニ於ケル赤白兩党ノ間ニ葛藤ヲ生ジ又滿州里ニ於ケル稅関長（英人）赤軍ノ為ニ抑留セラレタリトノ情報アリタルガ其ノ他何等聞ク処ナシト答ヘタリ、往電第一〇三号張宗昌ノ部下カ「ボクラニチナヤ」方面ヨリ懷德方面ニ南下シツツアルコトモ或ハ浦潮總領事發閣下宛往電第七七一号ノ如キ風説ノ因ヲナシタルニアラズヤトモ察セラル引続キ精探中ナルモ右不取敢

在支公使、哈爾濱、浦潮へ転電セリ

三七二 十月二十四日 在ハルビン山内總領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

オストロウモフ東支鐵道長官ノマニラ渡航ニ

関スル件

公第七二二号

（十一月三日接受）

大正十二年十月二十四日

在哈爾濱

總領事 山内 四郎（印）

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

七 東支鐵道管理問題 三七二

右ハ全ク予測ニ止リ確否ニ就キ充分ナル根底アルモノト首

五四一

肯シ難キモ何等御參考迄此段及報告候 敬具

三七三 十月二十六日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

赤軍ニヨル東支鐵道占領計画ノ風説ニ関シ

ニコリスク方面ニテ得タル情報報告ノ件

第四一号(郡司發電)

最近当地ニ於ケル軍隊ノ移動ニ関シ

本月二十二日小官「ニ」市ニ出張ノ際諜報者及日支在留民等ヨリ聞込ミタル処ヲ綜合スルニ十月十五日「ニ」市衛戍司令官ハ軍事行動開始、国境方面出動ノ命ヲ受ケ十七日第六「ハバロフスキー」連隊及「クバンスキー」騎兵連隊ヲ「カーメンルイバロフ」方面ヘ「ザバイカル」騎兵連隊ヲ「ボグラ」方面ニ出動セシメタルガ彼等ハ何レモ夜中竊カニ「ニ」市ヲ出發セルモノノ如ク目下同地ニハ予備隊トシテ一箇連隊駐屯スルノミニシテ他ハ全部国境方面ヲ主トシテ「グロデコフ」方面ニ出動シ居リ十八日ヨリ「ニ」市衛戍地内ニ在リシ食料、軍服、其ノ他ノ軍需品ヲ大部分搬出シ了リ、二十日ニハ「ニ」市停車場ニ新タニ停車場司令部設ケラレ二十三日ニハ鼎足挽車及代用列車二百輛出動ノ準

第六二八号

(十一月十六日接受)

新聞報十二日莫斯科發電

「チチェリン」ハ東支鐵道ハ露支兩國ニ屬スルモノデ他国ガ之ニ干与スルヲ許サズ本問題ニ就テハ露支間ニ疾ニ協定成立スベカリシニ関ラズ支那ガ露国ニ敵意ヲ有スル他国ノ影響ヲ受ケテキルノデ未ダ其運ビニナライ旨ヲ言明シタ他方露亜銀行ハ同鐵道ニ関シ露国ヲ除ク日英米支ノ會議ヲ哈爾濱ニ開催方ヲ提議スベシト

英米独瑞波蘭「リガ」ヘ郵報セリ

三七五 十一月二十七日 欧米局第一課起案

對東支鐵道方策考案^(註)

付記 右對東支鐵道方策考案ニ關スル出淵亜細亞局長ノ意見

一、東支鐵道ノ地位並ニ最近ノ經過
東支鐵道カ本来露国ノ財産ニ屬スルコトハ今更疑ヲ挿ムノ余地ナク現ニ支那以外ノ列国ニ於テモ一九一九年ノ東支共同監督實施及華府會議ニ際シ此趣旨ヲ認メ只露国ニ關係列国ノ承認セル政府存在セサルノ故ヲ以テ差当リ之ニ對シ支那政府ノ「トラスチーシップ」ヲ認ムルコトトセル次第ナ

七 東支鐵道管理問題 三七五

備了リ出發ノ命令ヲ待チツツアリ、斯ノ如ク多數軍隊ガ国境付近ニ集中セラレタルノミナラズ、停車場司令部ノ新設等明カニ軍事行動ノ計画アルヲ以テ一般市民ハ或ハ演習ナリト云ヒ或ハ又東支鐵道奪還ノ為メ開戦スル準備ナリト云ヒ揣摩憶測ヲ逞フシ居ル処十六日「ニ」市駐屯第六連隊付軍事「コンミサール」軍隊ヲ集メ『日本ハ震災後ノ復興ニ没頭シ支那ハ内乱ニ苦ミ共ニ何等為ス能ハザレバ此好機會ヲ利用シ東支鐵道ヲ取戻シ白軍殘党ヲ驅逐シ滿州、朝鮮ヲ通ジテ大陸ニ於ケル日本ノ帝國主義政策ヲ打破セザル可ラズ、之ガ為ニハ挑戰ハ吾人ニ取リテ最モ有利ナル条件ナリ』ト演説セリト今回軍隊ノ移動セルハ或ハ東支(不明)タルモノナランカ諜報者情報ニ依レハ十月二十八日ヲ期シ東支線ニ侵入、齊多、武市方面ト相呼応シテ哈爾濱ヲ攻撃スル予定ナル由、尚今後ノ狀況ニ就テハ注意中ナルモ不取敢

三七四 十一月十四日

在仏国石井大使ヨリ
伊集院外務大臣宛(電報)

東支鐵道問題ニ關スルチチェリンノ言明ニ付
報道ノ件

リ

之ニ反シ支那政府ハ一面利権回收熱ニ驅ラルルト共ニ露国革命以來ノ混亂狀態ヲ好機トシ此際東支鐵道ヲ自己ノ掌中ニ収メムコトニ腐心シ曩ニ付屬地ニ自国軍隊ヲ配置シ一九二〇年露亜銀行トノ間ニ所謂統約ヲ締結シ東支鐵道庁ノ組織ヲ改造シ自己ニ有利ナル地步ヲ作りタルノミナラス最近張作霖ハ付屬地内土地管理權ヲ回收セムト努メツツアリ而シテ露国勞農政府ハ支那側ノ右面策ニ反對シ所謂統約ヲ認メサルハ勿論東支鐵道庁ノ新組織ヲ否認スル外同鐵道ニ關スル列国ノ容喙ヲ斥ケ専ラ露支兩國間ニ本鐵道問題ノ解決スヘキヲ高唱セリ

二、東支鐵道ニ對スル帝國ノ利害關係

帝國ハ一九一九年列国ト共同シ東支鐵道ノ監督ニ當リ其間同鐵道ニ對シ數百万円ノ貸付ヲ為シタルノ事實アル外同鐵道ニ對スル帝國ノ利害ハ更ニ一層重大且根本的ナルモノアリ蓋シ帝國ノ對外發展カ将来如何ナル方面ヲ取ルトスルモ滿州カ其一重要起点タルハ何等疑ヲ容レサル所ニシテシカモ同地方ニ於ケル發展ノ進路カ北滿ニ存スルコト是亦明瞭ナル事實ナルヲ以テ北滿ニ於ケル活動ノ中軸タル東支鐵道

五四三

ニ對スル關係ハ帝國々策ノ一重要事項ニ屬ス從テ充分慎重ナル注意ヲ加フルト共ニ確乎タル決心ヲ以テ此カ對策ヲ樹立スルヲ必要トス今之ヲ國防上ヨリ見ルトキハ北滿ニ多數列國ノ勢力蟠居スルコト好シカラサルト共ニ孰レノ國ニ就テモ本件鐵道ヲ軍事輸送ニ利用スルコトナカラシムルヲ緊要トスヘク將又經濟的見地ヨリ之ヲ觀ルトキハ國際通路トシテノ同鐵道力安全且充分ニ輸送力ヲ維持スルコト必要ナルヲ以テ右ニ付相當ノ方法ヲ講スルノ要アルハ勿論ナルト共ニ北滿利源ノ開發ハ鐵道運輸ノ關係ヨリスルモ先ツ哈爾賓ヲ中心トセサルヘカラサルヲ以テ少クトモ哈爾賓以南ノ東支線ニ就キ充分帝國ノ勢力ヲ扶植スルヲ得ハ差當リ北滿ニ於ケル帝國ノ利益ヲ擁護増進スルニ足ルヘシ

三、東支鐵道ニ對スル列國關係並其帝國ニ及ボス影響

一九一九年共同監督ニ因リ列國ハ東支鐵道ニ對シ幾分債權ヲ有スル外華府會議ニ於テ共同決議ヲ為シ支那ニ「トラスチーシップ」ヲ認メタル行懸アル処右決議ハ要スルニ未タ露國ニ列國ノ承認セル政府ナキカ故暫ラク同鐵道ニ利害關係ヲ有スル諸國ニ於テ支那政府ノ事務管理ヲ認メタルモノト解スヘキモノナルヲ以テ後日勞農政府ニシテ列國ノ承認

ヲ享クル場合ニハ自カラ同政府ニ東支鐵道ノ帰屬カ認メラルルニ至ルヘキハ当然ノ帰結ナリ從テ右決議ニ參加セル一國カ他國ニ先チ勞農政府ヲ承認スル場合ニモ同國ノ關スル限リ勞農政府ニ同鐵道ノ帰屬ヲ承認スルモ理論上ハ何等ノ差支ナカルヘク殊ニ帝國ニシテ勞農政府ヲ正式ニ承認スル曉ニハ（支那側ノ利害ヲ顧慮スル必要アルヤ否ヤハ別問題トシ）政策上寧ロ進ンテ露國側ノ權利ヲ認メ以テ事態ヲ我方ノ有利ニ導クコト得策ナルヘシ

尚茲ニ一言スヘキハ露亜銀行ヲ通シ仏國トノ關係ナルカ同銀行ノ東支鐵道ニ對スル地位（歐米局「東支鐵道經過」亜細亜局「東支鐵道問題」参照）ハ本来架空的ナルヲ以テ帝國カ露國側ノ權利ヲ認ムルニ當リ特ニ仏國資本家ノ關係ヲ顧慮スルノ必要ハ之ナカルヘシト思ハル

四、東支鐵道ニ對スル露支兩國角逐ノ帰趨及帝國ニ及ボス影響

露支兩國ノ東支問題ニ對スル利害ハ正ニ相反スルヲ以テ其妥結甚タ困難ナルヘキモ露國側從來ノ主張ハ同鐵道カ露國財産ナルコトヲ高調スルト共ニ支那ノ領土主權ヲ侵害セサルヘキヲ付説スルヲ常トスル点等ヨリ之ヲ察スルニ止ムナ

キ場合ニハ露國側ハ白党放逐ヲ條件トシ付屬地ノ拋棄ニ同意スルヤモ知レス又支那側ニ於テモ本来ノ希望及所謂統約ニ基ク主張ハ兎モ角理論上東支鐵道ヲ以テ全然自己ノ財産ナリト主張スル根拠ナキハ勿論又從來明カニ此種ノ主張ヲ為シタルコトナキニ顧ミ支那側ニ於テハ結局付屬地ノ回收ト東支鐵道經營ニ對スル幾分ノ割込ヲ以テ満足スルコトトナルヤモ測ラレス

而シテ右ニ就キ帝國ノ立場ヨリ之ヲ見ルニ露國カ戰前ノ如ク絶大ノ力ヲ以テ東支鐵道ニ蟠居スルコト望シカラサルト共ニ支那カ不當ニ本件鐵道ヲ回收スルコトハ南滿鐵道ニ對シ惡例ヲ作ルコトトナリ甚タ好シカラサルヲ以テ大勢カ上記ノ如キ妥結方法ニ傾ク場合ニハ帝國ニ於テ何等之ヲ阻止スヘキ理由ナキト共ニ或場合ニハ之ヲ利用シ其間帝國ノ利益ニ合致スヘキ方策ヲ回ラスヲ可トス

尤モ露支間ニ東支鐵道ニ關スル妥協案外容易ニ成立スルカ如キコトアル場合ニハ或ハ帝國ノ割込ムヘキ機會ヲ甚タ困難ナラシムルコトアルヘク將又若シ近キ將來ニ於テ露支兩國カ何等ノ妥協ニ到達セサル結果露國ニ於テ東支鐵道ノ武力占領ヲ行フカ如キコトアラハ事態紛糾シ收拾スヘカラサ

ルニ至ル虞アルヲ以テ旁々我方ハ前記諸事態ノ發生ニ先チ予メ對東支鐵道政策ヲ講究シ置クノ必要アルヘシ

五、東支鐵道ニ對スル帝國ノ希望

本稿（二）所載ノ如ク帝國ノ東支鐵道ニ對スル利害緊要ナルニ顧ミ同鐵道全般ノ經營發展ニ就キ何等カ關係ヲ付クルコトニ努ムヘキハ勿論ナルモ尠クトモ哈爾賓以南線ノ運行ヲ自身經營スルカ又ハ之ニ參加スルヲ必要トシ其方法ハ畢竟左ノ三案ニ外ナラサルヘシ

第一案、哈爾賓以南線ノ買受

大正五年第四回日露協約付屬公文交換ニヨリ我方ハ露國政府ヨリ老燒鍋以南線ヲ二千三百万円ニテ買受クルコトヲ約セリ右公文交換ハ手続ノ点ニ於テ完全ナリト云ヒ難ク從テ充分ナル効力ヲ有スルヤ些カ疑問アリト雖兎ニ角買収提議ノ一緣由トシテ利用スルニハ充分ナルヘシ

第二案、哈爾賓以南線ノ合併經營

右合併ノ方法トシテ

一、日露支三者ノ合併

二、日露兩者ノ合併

ノ二者アルヘク孰レノ場合ニモ露國ノ有スル財産權ヲ評

価スルヲ要ス

第三案、哈爾濱以南線ノ改築

現線路ヲ南滿鐵道ト同一ノ軌道ニ改メ又ハ現線路ノ外ニ南滿線ヲ哈爾濱迄延長スルコトニ露国側ノ承諾ヲ得以テ兩者間ノ運輸關係ヲ更ニ密接ナラシムルコト

右三案ニ付我方ノ利益ヨリ之ヲ見ルトキハ第一案ヲ最モ得策トシ第二案及第三案ニ就テハ一利一害アルヘク尚篤ト研究ノ要アリ

六、帝国ノ対東支鐵道方策

東支鐵道ニ対スル前記帝国ノ希望ヲ實現スルカ為ニハ如何ナル方策ニ出ツヘキヤ是レ甚タ重要ナルト共ニ頗ル細心ノ注意ヲ要スル問題ナルカ

(一) 第一方策トシテハ日本カ近ク露国ト交渉ヲ開キ勞農政府ヲ承認スルノ外ナキ事態ニアリトスルニ於テハ東支鐵道ニ関スル露支兩國カ妥協ニ到達スル以前兩國ノ角逐ヲ調停シ本稿四所載右角逐当然ノ帰趨ヲ基礎トシ根本的解決ニ導クト共ニ一方露支双方ニ対シ(a)日本ノ滿州ニ於ケル一般的地位(b)東支鐵道カ欧亞間國際交通路タル關係上南滿鐵道トノ關係ヲ緊密ニスル必要アルコト(c)大正五年

公文交換ニヨリ我方ハ東支南部線ノ一部ヲ買受クル權利アルコト等ノ事實ヲ指摘シ東支鐵道ニ関シ日露支三国間ニ錯綜スル利害關係ヲ調和シ三国間ノ親善ヲ増進スルト共ニ北滿利源ノ開発ニ資スル目的達成上緊要ニ屬ストノ趣旨ヲ説明シ此際右案ノ孰レカヲ實現セシムルニ在リ右ニ就キ支那現下ノ実情ニ顧ミ張作霖ノ東三省ニ於ケル地位ニ付充分ナル考慮ヲ加フル必要アルハ勿論ニシテ前記方策ノ遂行ニ付支那側ノ了解ヲ取付クル際ニハ或ハ先ツ同人ヲ説得スルヲ得策トスヘキガ一方同人及北京政府ニシテ飽迄モ利權回收熱ニ焦心シ我方策ヲ容レサル場合ニハ既存條約上不当ナル其慾望ヲ阻止シ直ニ露国側ト相約シ本件方策遂行ニ努ムルノ決心ヲ要スヘシ

(二) 然ルニ翻ツテ考フルニ露支兩國間ノ問題ハ啻ニ東支鐵道ニ止マラス蒙古問題松花江黒竜江航行問題其他幾多面倒ナル懸案ノ存スルアリ兩國間ノ國際關係ハ容易ニ妥解シ得ヘシト思料スルヲ得ス若シ帝国ニシテ東支鐵道問題ニ就テノミ先ツ彼等兩國ノ角逐ヲ調停セント試ムルモ果シテ所期ノ目的ヲ達シ得ヘキヤ容易ニ逆睹シ難キモノアリ況ンヤ一旦兩國紛争ノ渦中ニ投シタル結果トシテ交渉

ノ經過如何ニヨリテハ露支兩國何レカノ主張ニ賛否ヲ表明セサルヘカラサルノ破目ニ陥リ徒ラニ兩國孰レカニ反感ヲ惹起セシムルニ至ルノ虞アリ加フルニ東支鐵道問題ニ就テハ華府會議ノ決議モアリ帝国ハ關係諸国ト共同ノ態度ヲ採リ来リタルニ此際單ニ自国ノ利益ノ為メ単独行動ニ出ツルニ於テハ列国ノ猜疑ヲ招クヘキハ予メ覺悟セサルヘカラサルノミナラス若シ本問題ニ対スル露支ノ確執ニシテ容易ニ解ケス益々其紛糾加フルガ如キ事態ニ立到ラハ帝国ハ前面ニハ露支何レカノ反感ヲ買ヒ背面ヨリハ列国ノ非難ヲ受クルコトトナリ何等得ル処ナキノミナラス将来帝国ノ發展スヘキ北滿ニ於テ諸般ノ施設上鈔カラサル不便ノ地位ニ置カルルノ結果トナルヤモ料ラレス殊ニ日露間ニハ早晚國交開始ノ為メ交渉ヲ開クヘキ氣運ニ向ヒツツアル際スル重要問題ニ就キ露支間ノ紛議ニ関与スルハ他日ノ日露交渉ノ上ニモ如何ナル影響ヲ持チ来テ本問題ノ渦中ニ投スルハ寧ロ不得策ニアラサルカトモ思料セラル就テハ

第二方策トシテ帝国政府トシテハ現在ノ処露支間ニ於ケ

ル東支鐵道問題ノ成行ニ対シ充分ノ注意ヲ払ヒ露支間ノ交渉經過如何ニヨリ有利ニ乘スヘキ好機アラハ露支ノ間ニ介入シ又ハ形勢如何ニヨリ露或ハ支ニ接近シ前記三案ノ何レカ實現ニ努力スルノ方針ヲ定メ置クニ止メ暫ラク傍觀者ノ地位ニ立ツヲ可トス尤モ一方ニ於テ南滿鐵道会社ヲシテ同社ノ營業的見地ヨリ政府ト離レテ直接東支鐵道会社ト何等カ接觸ノ方法ヲ採ラシムルコトハ別ニ差支ナカルヘキノミナラス洮南線ヲ齊々哈爾濱ニ延長スル案ノ如キハ東支鐵道会社牽制上ニモ面白キ結果ヲ現ハスヤモ測ラレサルニ付滿鐵ヲシテ着々スル案実行ニ進マシムルコト可然(大正十二年十一月二十七日)

(欄外註記)

「西比利亞及東支鐵道ニ対スル援助資金金額九百九十八万円余」
註 右方策案ハ大正十二年十一月二十五日欧米局第一課長東郷茂徳起案ノ「対東支鐵道方策私見」ニ対シ欧米局長広田弘毅ノ意見ニ依リ之ヲ修正シタルモノナリ

(付記)

右対東支鐵道方策案ニ関スル出淵重細重局長ノ意見
本案尚篤ト研究ヲ要スルモ差当リ卑見左之通
一、東支線問題ハ主トシテ露国相手ニ解決スベキモノニ付

七 東支鐵道管理問題 三七六

支那トノ關係ニ於テ余リ深入リセザル方可然此際ハ大体
第二方策ヲ可トス

一、洮齊線ハ四国団トノ關係上考慮ヲ要スル点不尠他日ノ
問題ト致度

一、哈爾濱以南線改築ノ件、事容易ナラズ賓黒線トノ關係
ト共ニ徐ニ考慮シタシ後者ニ対スル正金關係ノ持続ハ差
向工夫ヲ要ス

一、北滿進出固ヨリ望マシキモ南滿充実亦肝要也長春大寶
線、開海線、吉会線ノ順序ニテ促進方考慮ヲ要ス

一、東支線カ白ノ手ニアル間往年ノ日露密約ハ常ニ念頭ニ
置クコト必要也 出淵

三七六 十一月三十日 在長春西領事ヨリ
伊集院外務大臣宛

赤軍ニヨル東支鐵道奪取計画ニ關スル件
機密公第四二八号 (十二月十日接受)

大正十二年十一月三十日

在長春

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿
領事 西 春彦(印)

五四八

大正十二年十一月三十日付長領高警第二八六九号

ノ一 当館警察署長報告写送付

赤軍ノ東支鐵道奪取計画ニ關スル件

写送付先 在支公使 在奉天總領事

赤軍東支鐵道奪取計画ニ關スル件

去二十五日東支護路總司令ヨリ吉林督軍署ニ達シタル電報
ニ曰ク

去二十五日滿州里特別区域第五警察署長趙春芳ノ報告ニ該
署露國人警官「ペクロテン」(別大洛聽) 及探偵「ココウ
チンス」(客稿近思)ノ報告ニ依レバ今回ノ露支會議不成
立ノ際ハ露國ハ武力ヲ以テ支那ヲ牽制シ東支鐵道ヲ占領セ
ントスルノ議アリ現ニ勞農政府ハ東支鐵道沿線一帶ノ露國
人召集令ヲ發シテ歸國セシメ正式軍隊ヲ編成シテ別々辺境
ニ集メ機ヲ見テ東支鐵路ヲ奪取セント準備シツツアリ此
ノ報告ハ未タ遽ニ信シ難キヲ以テ適當ナル露人ハ警察員三
名(「プラニロフ」、「スマク」、「ロート」)ヲ狩獵者ニ変裝
セシメテ國境吉虛飢河(「チラリン」河?) 阿齊古納阿巴
該圖(「アパカイト」?) 地方ニ派シ其ノ実否ヲ調査セシ
メツツアリ

事項八 關東大震災關係

1 各国ノ救恤關係

三七七 九月三日 在米國壇原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

日本ノ震災ニ対シ米國民ハ赤十字ヲ通ジテ助
カラ尽サンコトヲ望ム旨ノ大統領布告ニ關シ

謝意表明ノ件

第五四二号

(佐世保經由九月七日接受)

九月三日午後大統領ハ本邦今回ノ震災ニ対シ米國民ハ「ア
メリカン・レッド・クロス」ヲ通ジテ日本ニ対シ出来得ル
限リノ助力ヲ尽サン事ヲ希望ストノ布告ヲ發シ以テ米國民
ノ同情ニ訴フル処アリタルガ三日午前本使ハ國務長官代理
ニ会见シ日本(不明)ニ対シ感謝ノ意ヲ表シタル際同長官
代理ハ右布告ニ關シ本使ノ内意ヲ質シタルニ付右ハ日本政
府及國民ノ深ク感謝スル処ナルベク更ニ今回ノ災厄ニ対ス
ル米國大統領始メ朝野一般ノ表示セル同情ハ之ヲ本國ニ伝
達スル為所有方法ヲ尽シツツアル旨回答スルト共ニ大統領

八 關東大震災關係 三七七 三七八

ニ謝意傳達方依頼シ置ケリ

(佐世保經由 吾妻携帶電)

三七八 九月四日 在米國壇原大使ヨリ
山本外務大臣宛(電報)

米國ニテ計畫中ノ日本震災ノ救援方法ニ關シ
日本側ノ希望要件問合ノ件

第五四九号

(九月七日接受)

今月四日招ニ依リ赤十字当局者タル商務卿「フーバー」其ノ
他ト協議シタル処先方ハ本邦今回ノ震災ニ対シ出来得ル限
リノ救援ニ尽力スル意気込ニテ既ニ不取敢國務省ヲ通シ米
國赤十字社最初ノ寄付金十萬弗ヲ日本赤十字社ニ送付スル
手續ヲ執レルカ猶ホ今後出来得レハ五百萬弗ヲ標準トシテ
米國一般公衆ヨリ大至急寄付金募集ニ着手シタキ趣旨ニテ
本使ノ意見ヲ求メタル次第ナルカ米國ニ於ケル救援計畫カ
万一ニモ早計ニ失シ又ハ出過キタリト云フ如キ感触ヲ日本
側ニ与フル様ノコトアリテハ後日赤十字当局ニ於テ甚タ面
白カラヌ立場ニ立ツヘク此点ニ關シ先ツ腹藏ナキ意見承知

五四九